

# シラバス

石川県立総合看護専門学校

専門課程 第三看護学科

令和8年度生

# シラバス

石川県立総合看護専門学校  
専門課程 第三看護学科

## 目 次

I	教育理念	1
II	教育目的	
III	教育目標	
IV	卒業生像	
V	3つのポリシー	2
VI	教育計画	3
VII	教育課程の構造図	5
	カリキュラムツリー	6
VIII	基礎分野	
	目的・目標・科目構成	7
	科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容	8
	授業要綱	12
IX	専門基礎分野	
	目的・目標・科目構成	25
	科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容	26
	授業要綱	29
X	専門分野	
	目的・目標・科目構成	43
	各専門分野における目的・目標・科目構成・授業実施計画	44
	授業要綱	
	基礎看護学	66
	地域・在宅看護論	77
	成人看護学	89
	老年看護学	98
	小児看護学	104
	母性看護学	111
	精神看護学	116
	看護の統合と実践	123
XI	教育に関する事項	130
XII	教科外教育活動	131

## I 教育理念

生命尊重  
人間愛  
使命感  
責任感  
自立

## II 教育目的

看護師として必要な知識及び技術を教授し、社会のニーズに貢献しうる人間性豊かな看護の実践者を育成する。

## III. 教育目標

1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる能力を養う。
2. 人々の健康上の課題に対応するため科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
3. 多様な場で生活する人々への看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として、多職種の協働の中で看護の役割が理解することができる能力を養う。
5. 専門職業人として向上し続けるために最新の知識・技術を自ら学び続ける能力を養う。

## IV. 卒業生像

人間の生命と尊厳を尊重するための高い倫理観を持ち、社会や人々の多様な健康ニーズをその人らしい生活への看護実践につなげていくとともに、そのための必要な知識や実践的な技術を有し、専門職業人として使命感を持って学び続ける看護職。

## V. 3つのポリシー

### A P

1. 対象理解をするための准看護師としての専門的な知識・技術・態度を有している。
2. 対象者に倫理的な視点を持ち、関心を寄せ、コミュニケーションを取ることができる。
3. 看護師として地域に貢献する意志がある。
4. 専門職として必要な学習に主体的に取り組む意欲があり、他者と協力して共に成長することができる。

### C P

1. 生命を尊重し、豊かな人間性を育てることを基盤とする。
2. 健康の保持・増進、疾病予防、健康の回復と苦痛緩和の視点を持ち、科学的根拠に基づいた判断力を育てる。
3. 対象理解と自己理解に励み、人間を統合的に捉える力を育てる。
4. 対象を統合的存在と理解し、個別性のある看護を考え、提供できる力を育てる。
5. 対象を生活者として捉え、保健・医療・福祉の動向を視野に入れ、対象の権利擁護を考えながら、自己実現やその人らしい生活を支える看護を導く。
6. チームで活動するうえでの看護の役割・機能を理解し育む。
7. 多職種連携の必要性を理解し、多職種との協働の重要性を理解する。
8. 変化していく医療・看護に適応する柔軟な思考と、自己研鑽し続ける力を養い、生涯学習者として自己の成長にもつなげる視点をもつ。

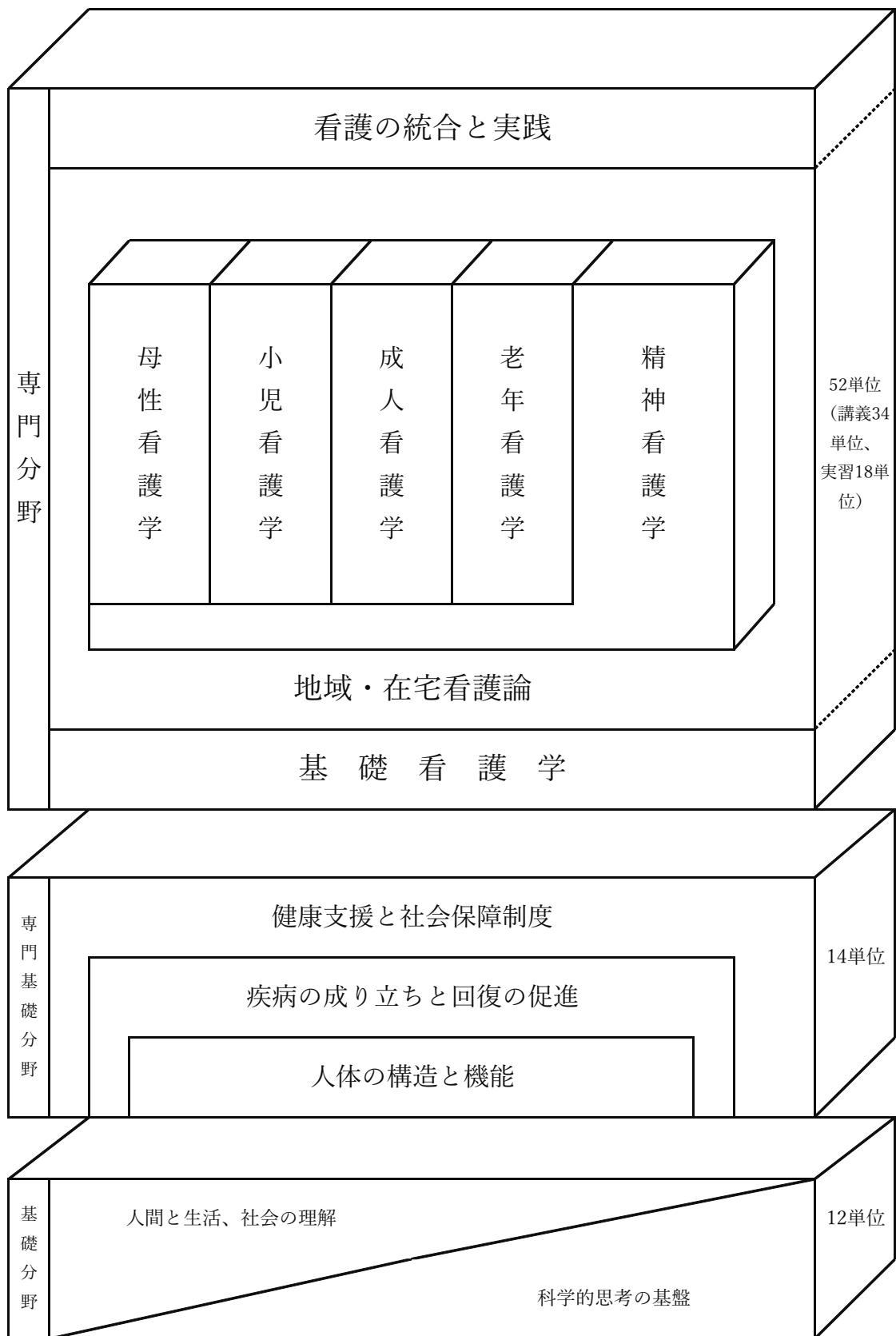
### D P

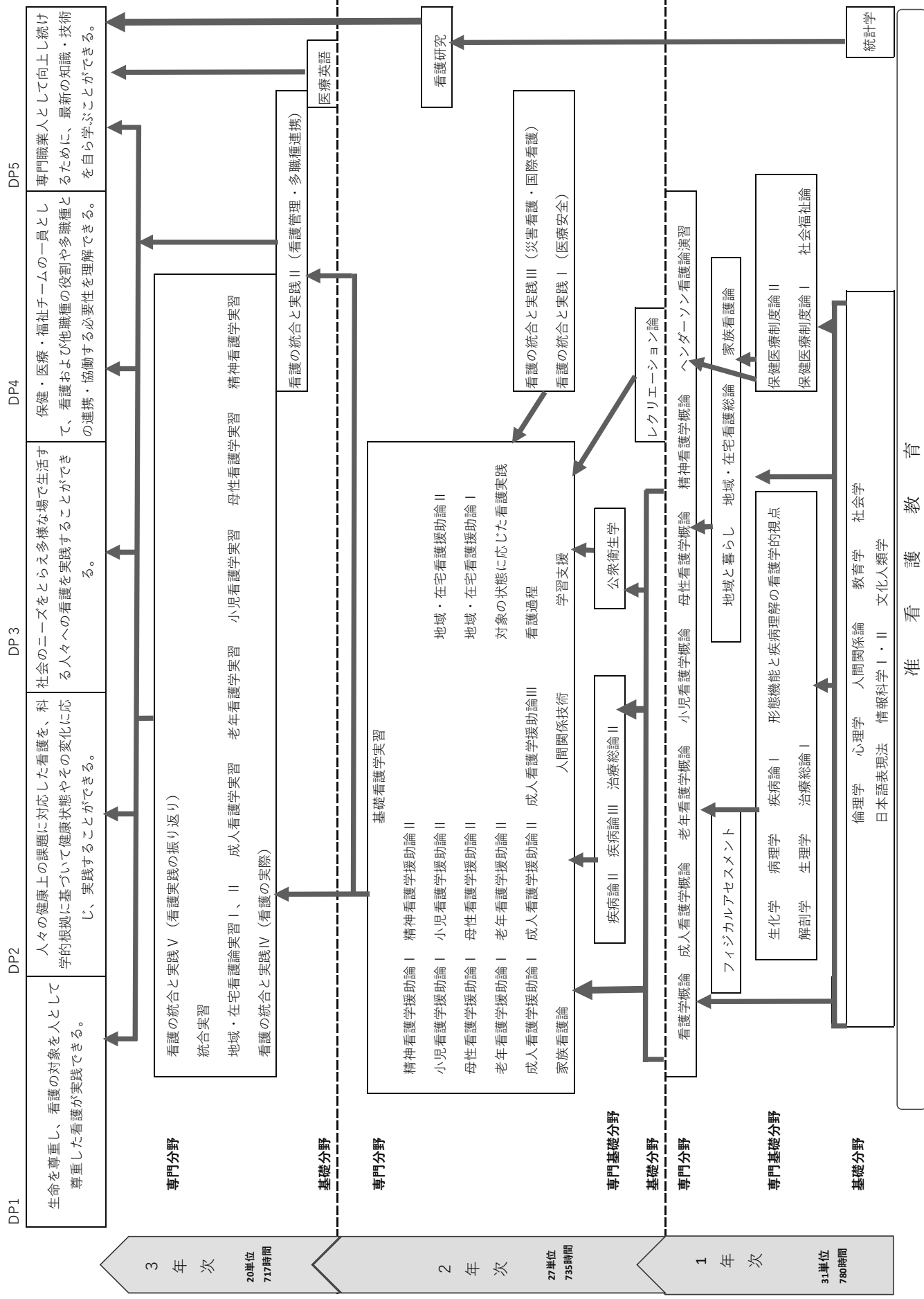
1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。
2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。
3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。
5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。





## VII.教育課程の構造図





## VIII 基礎分野

【基礎分野】12科目 12単位 (315時間)

基礎分野は看護専門職人としてのものの見方を深める学習内容であり、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置付ける。看護の対象である人間を統合的に理解し、人間の尊厳と医療者の論理を踏まえ、人が作り出す社会の仕組みや文化、倫理的な判断や行動ができるための知識を身につける。また、人間関係形成とその発展を図るコミュニケーション能力を身につけ、対象理解を深め、その人らしい生活支援ができるよう知識を身につける。さらに、生涯にわたり探求する学習姿勢を養い、自分の考えを表現するための論理的思考を養う。また、国際化が進み、看護場面でも多く用いられる英語を学ぶ。そして、地域で生活する人々との交流から、多様な看護の視点があることを理解する。多様な場で暮らす対象への情報収集、支援体制のための情報通信技術 (ICT) 活用の知識や方法を学ぶ。

構成：科学的思考の基盤

- |             |            |
|-------------|------------|
| (1) 日本語表現法  | 1単位 (30時間) |
| (2) 情報科学 I  | 1単位 (30時間) |
| (3) 情報科学 II | 1単位 (30時間) |
| (4) 統計学     | 1単位 (15時間) |

：人間と生活、社会の理解

- |               |            |
|---------------|------------|
| (1) 倫理学       | 1単位 (30時間) |
| (2) 心理学       | 1単位 (30時間) |
| (3) 人間関係論     | 1単位 (30時間) |
| (4) 教育学       | 1単位 (30時間) |
| (5) 文化人類学     | 1単位 (15時間) |
| (6) 医療英語      | 1単位 (30時間) |
| (7) 社会学       | 1単位 (30時間) |
| (8) レクリエーション論 | 1単位 (15時間) |

科目		単 位	時 間	時 期	設 定 理 由	科 目 目 標	教 育 内 容
科学的思考の基盤	日本語表現法	1	30	1年 後	自分の考えを相手に解りやすく伝えるための論理的思考、コミュニケーション能力を養う。	1. 書くこと、話すことの理論と実践を通して、日本語表現の能力を高めるための基礎を身につける。 2. 自分の考えを主体的、論理的に表現する能力を養うと共に、的確に相手に伝える能力を養う。	1. 基本的な文章表現法 2. 基本的な文字表現法 3. レポートの書き方 4. 教材文の分析・批判法 5. 基本的な口語表現法
	情報科学Ⅰ	1	30	1年 前後	デジタル技術の進歩によりさまざまな知識や情報が共有され、医療においても情報活用能力が求められる。現代社会における情報通信技術（ICT）の基本的知識を学ぶ。	1. 現代社会における情報通信技術（ICT）の基本的知識を理解する。	1. 情報の定義と特徴 2. 看護と情報 3. 情報リテラシー 4. コンピュータリテラシーとセキュリティ 5. プレゼンテーション（PowerPoint）
	情報科学Ⅱ	1	30	1年 後		1. 基本的なコンピューター操作を身につける。	1. パソコンの基本操作 2. Excelによる統計解析 3. Microsoft Wordの使い方
	統計学	1	15	1年 後	統計処理の基本的知識を理解し、分析結果を読み取る能力を養う。更に、看護研究を実施していく上で必要となる種々の統計学的技法について学ぶ。	1. 統計的なものの考え方を学び、統計的な手法の基礎を理解する。	1. 統計学とは 2. 統計データ 3. 統計的手法

人間と生活・社会の理解	倫理学	1	30	1年前	「善」「幸福」「平等」「自由」という倫理学の根本を学び、専門職として対象の人権を尊重し主体的な判断、責任を持ったサービスの提供者として、自らを律し、人間としての倫理観を養う。	1. 日常生活や現代社会の倫理的な諸問題を学問的に学び、これを出発点として自己および社会へのかかわり方について学ぶ。	1. 現代社会と倫理 2. 倫理思想 3. 生命倫理学 4. 現代社会の問題と倫理、人権の重要性
	心理学	1	30	1年前	看護の対象は、身体面、心理面、社会面の3側面をもつ人間である。その対象の心理や行動面を理解するうえでの基礎的知識が必要である。また、看護師を目指す学生にとって自己理解につなげ、人間形成を促すために重要であり、看護に応用できる能力を養う。	1. 人間の心と行動について学び、自己と他者を理解するきっかけとする。さらに、大人への成長・発達にもなう変化と個人差や、患者の心理、行動についても理解する。	1. 心理学とは 2. 認知 3. 行動 4. 発達 5. 人間理解
	人間関係論	1	30	1年後	看護師には対象者の発達段階や身上を考慮し健康へとファシリテートしていく力が不可欠である。そのために、広い視座から鑑みる機会を持ち、あらゆる人々と良好な関係や教育的な関係をつくる基礎的能力を養う。	1. 一般的な人間関係の理論の知識やカウンセリングの体験から、人間関係を円滑に作る方法を考える基とする。 2. 社会的な役割を認識し、人間として、医療者として人の心に添う能力を養う。	1. 人間存在と人間関係 2. 社会的相互作用と社会的役割 3. コミュニケーションの概念 4. カウンセリング理論とその技法 5. ソーシャルサポートをめぐる人間関係 6. ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係

人間と生活・社会の理解	教育学	1	30	1年前後	教育は人間形成のうえで大きな役割を担っており、人間理解、自己理解を深める。	<p>1. 教育の意義や基本構造を中心に教育の基本的事項を理解する。</p> <p>2. 看護における教育的役割や学習について理解する。</p> <p>3. 生涯学習の必要性について理解する。</p>	<p>1. 教育とは</p> <p>2. 教育の歴史</p> <p>3. 教育の制度</p> <p>4. 人間の学習と成長・発達</p> <p>5. 教育の本質と目標 (1) 教育の本質と目標 (2) 人を教えるということ</p> <p>6. コミュニケーション論</p> <p>7. 教育方法の基本原則</p> <p>8. 学ぶ・教えるということ</p> <p>9. 教育の評価</p> <p>10. 看護と教育</p> <p>11. 現代教育の諸問題と課題</p> <p>12. 生涯学習</p>
	文化人類学	1	15	1年後	日本と外国の文化・生活を学ぶことで、自己の理解(他者の理解)を尊重することにつながると考える。多様な場で生活する人々を広い視野に立って理解する。	<p>1. 人間の文化や社会の様々な側面を眺めてみることで人間に対する理解を深める。</p> <p>2. 異文化理解のあり方について考える。</p>	<p>1. 人間と文化</p> <p>2. 異文化理解の必要性</p> <p>3. 社会と文化</p> <p>4. 人生と時間</p> <p>5. ジェンダーとセクシュアリティ</p> <p>6. 医療人類学</p>
	医療英語	1	30	3年前	医療看護の専門用語を身につけ、看護場面における初歩的な英会話力を養う。	<p>1. 基本的な医学用語、看護用語を学ぶ。</p> <p>2. 看護場面でよく使われる英語表現を身につける。</p>	<p>1. 医学用語、看護用語</p> <p>2. 看護場面における英会話</p>

人間と生活・社会の理解	社会学	1	30	1年前	社会的存在としての人間理解の面から、個と家族の理解、家族としての役割機能、個人と生活について捉えさせる。また人々の健康と生活を、自然・社会・文化的環境との相互作用等の観点からも理解につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 変動する社会構造や機能、現代家族の特徴を理解する。</li> <li>2. 社会構造と人間生活との関係、医療との関係について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の基本概念</li> <li>2. 社会の構造と機能</li> <li>3. 家族と社会</li> <li>4. 職業と職場集団</li> <li>5. 医療と社会的行為</li> <li>6. 現代社会</li> <li>7. 社会問題と政策的対応</li> </ul>
	レクリエーション論	1	15	2年前	社会構造と生活が大きく変化している中で、一人ひとりの生活が豊かで生き生きとしたものになることがより求められている。その一つとしてレクリエーションという視点から人々の生活のあり方を考え、看護場面でも生かしていく力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 生活の中にあるレクリエーションの意義とその考え方や内容について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. レクリエーションの意義</li> <li>2. 看護とレクリエーション</li> <li>3. レクリエーション活動の場と対象</li> <li>4. レクリエーション活動のプロセス</li> <li>5. レクリエーション活動の実際</li> </ul>

科目名  日本語表現法	時間数 1 単位 30 時間  時期 1 年次後期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 ・書くこと、話すことの理論と実践を通して、日本語表現の能力を高めるための基礎を身につける。 ・自己の考えを主体的、論理的に表現する能力を養うと共に、的確に相手に伝える能力を養う。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学ぶことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 基本的な文章表現法 2. 文字表現編 同音異義語 3. 同訓異義語 4. 四字熟語・仮名遣いと送り仮名 5. 文章作成編 文章構成・文章の要約 6. ディベート 7. 原稿用紙の使い方 8. 文章実践編 手紙とはがき 9. 履歴書・エントリーシート 10. レポート 11. 小論文 12. 口語表現編 待遇表現① 13. 待遇表現② 14. プレゼンテーション	講義	
15. 試験		
使用する図書 キャリアアップ国語表現法 嗟峨野書院		評価方法 確認テスト 筆記試験
参考図書		
受講上の注意 確認テストが数回あります。		



科目名  <b>情報科学Ⅱ</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 大学・短大の 情報科学担当者
科目のねらい・授業目標 ・情報技術の急速な進歩に対応し、基本的なコンピュータの操作について学ぶ。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学ぶことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 2. Windows の基礎知識  3～8. 文書作成 Word  9～14. 表計算 Excel  15. 実技試験	講義・演習  講義・演習  講義・演習  実技試験	
使用する図書		評価方法 参加態度 実技試験
参考図書 系統看護学講座 看護情報学 / 医学書院		
受講上の注意 復習が重要となります、各自練習をする。		

科目名  統計学	時間数 1 単位 15 時間  時期 1 年次後期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 ・統計的なものの見方を理解できる。 ・統計データの種類とまとめ方を理解できる。 ・統計的手法の基礎を理解できる。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続ける姿勢をもつことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 統計学入門 1) 統計学 2) 健康指標 2. 統計データのまとめ方 1) データの種類 2) データの入力方法 3) 度数分布表 4) 分割法 5) 図示法 6) 集団をあらわす代表的な数値 3. 確率分布と推定 1) 確率 2) 正規分布と正規分布以外の確立 3) 推定 4. 統計学的検定 1) 帰無仮説 2) 2 種類の過誤と有意水準 3) 両側検定と片側検定 4) 代表的な検定 5) カイ 2 乗検定 6) ノンパラメトリックな検定 5. 回帰と関連 1) 関連 2) 回帰曲線 3) 相関 6. 保健統計の実際の見方 7. 統計ソフトによる実際	講義	
8. 試験		
使用する図書 やさしい保健統計学 南江堂		評価方法 筆記試験 レポート
参考図書		
受講上の注意		

科目名  倫理学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学教授 または倫理学・哲学に関する学識を要する者
科目のねらい・授業目標 ・日常の生活や現代社会の倫理的な諸問題を学問的に学び、これを出発点として自己および社会へのかかわり方について学ぶ。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 倫理・道徳とは 倫理の語義的説明 古代ギリシアにおける人間観 2. 倫理・道徳とは何か ギリシアと旧約の人間観と倫理 3. 倫理とは（承前）、さらに倫理の多様性 4. 倫理の多様性 価値相対主義のプラス・マイナス 5. 医療と倫理 両者の関係 6. 医の倫理と生命倫理 両者の相違 7. 生命倫理の成立過程 カレン裁判・タスキーギ事件・リスボン宣言 8. 生命倫理の二原則から四原則へ 9. 生命倫理学の正義公正原則 10. 生命倫理三（四）原則 バルセロナ宣言 11. 安楽死・尊厳死・自然死（1） 概念の説明 12. 安楽死・尊厳死・自然死（2） その歴史と具体的な事件 13. 「死ぬ権利」と医療者相互関係（1） 14. 「死ぬ権利」と医療者相互関係（2）看護者の患者に対するアドヴォカシー	講義	
15. 試験		

<p>使用する図書</p> <p>盛永審一郎 看護学生のための医療倫理 丸善出版</p>	<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>
<p>参考図書</p> <p>今井道夫 哲学教科書シリーズ. 生命倫理学入門 産業図書</p> <p>浅見洋 二人称の死 春風社</p> <p>細見博志 生と死を考える 北國新聞社</p> <p>塩野寛 生命倫理への招待 南山堂</p> <p>小林亜津子 看護のための生命倫理 ナカニシヤ出版</p>	
<p>受講上の注意</p>	

科目名  心理学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学、短大講師 または臨床心理士
科目のねらい・授業目標 ・人間の心と行動について学び、自己と他者を理解するきっかけとする。さらに、大人への成長・発達に伴う変化と個人差や、患者の心理、行動についても理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態や変化に応じ、実践することができる。		
授業内容 1. 心理学とは 2. 感覚・知覚 3. 記憶 4. 思考・言語・知能（1） 5. 思考・言語・知能（2） 6. 学習 7. 感情と動機づけ（1） 8. 感情と動機づけ（2） 9. パーソナリティ 10. 社会の中の人間 11. 発達（1） 12. 発達（2） 13. 心理臨床 14. 医療と看護と心理学	方法 講義・グループ ワーク	備考
15. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書 心理学 ナカニシヤ出版		
受講上の注意		

科目名  人間関係論	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 大学講師 短大講師
科目のねらい・授業目標 ・一般的な人間関係の理論の知識やカウンセリングの体験から、人間関係を円滑に作る方法を考える基とする。さらに、社会的な役割を認識し、人間として、医療者として人の心に添う能力を養う。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 人間関係の中の自己と他者 2. 対人関係と役割 3. 社会的相互作用と社会的役割 4. コミュニケーションの理解 5. コミュニケーション技法 6. カウンセリングの理論 7. カウンセリング技法 8. コーチングの理論 9. コーチングの技法 10. 保健医療チームの人間関係 11. 患者を支える人間関係 12. 家族を含めた人間関係 13. 地域をつくる人間関係 14. ノーマライゼーションをはぐくむ人間関係	講義・演習	ロールプレイ
15. 試験		
使用する図書		評価方法 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 人間関係論 医学書院 星野欣生著 人間関係づくりトレーニング 金子書房		
受講上の注意		

科目名  <b>教育学</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前後期	講義担当者  大学・短大講師
科目のねらい・授業目標 ・教育意義や基本構造を中心に教育の基本的事項を理解する。 ・人間形成における教育の機能を理解し、看護における教育的役割や学習について理解する。 ・生涯学習の必要性について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学ぶことができる。		
授業内容	方法	備考
1. 教育とは 2. 教育の歴史 3. 教育の制度 4. 人間の学習と成長・発達 5. 教育の本質と目標 1 6. 教育の本質と目標 2 7. 人を教えるということ 8. コミュニケーション論 9. 教育方法の基本原則 10. 学ぶ・教えるということ 11. 教育の評価 12. 看護と教育 13. 現代教育の諸問題と課題 14. 生涯学習	講義	
15. 試験		
使用する図書		評価方法
参考図書 系統看護学講座 教育学 医学書院 新体系看護学 教育 メヂカルフレンド社		筆記試験
受講上の注意		

科目名  文化人類学	時間数 1 単位 15 時間  時期 1 年次後期	講義担当者 大学講師
科目のねらい・授業目標 ・日本と外国の文化・生活を考え学ぶことで、自己の理解（他者の理解）を尊重することにつながる と考える。人間の文化や社会の様々な側面を眺めてみることで人間に対する理解を深める。 ・異文化理解のあり方について考え、多様な場で生活する人々を広い視野に立って理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 文化人類学を学ぶ目的 文化人類学の成り立ちと問題意識 2. 人間・文化・言語とは何か 3. 異文化理解の必要性 異文化理解と自分化理解 4. 社会と文化 1) 社会構造：社会組織、個人、集団 2) 家族：生殖と継承・家族 3) 共同体 5. 人生と時間 1) 誕生：妊娠、出産、誕生の文化 2) 成長：子どもにまつわる文化・成熟の儀式 3) 婚姻と家族：婚礼の文化・儀式 4) 死：看取り・死の概念・葬送儀式の文化 6. ジェンダーとセクシュアリティ 7. 医療人類学 1) 人間の生と死 2) 病と語り：患者と医療者のコミュニケーション	講義	
8. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名  医療英語	時間数 1 単位 30 時間  時期 3 年次前期	講義担当者 大学、短大講師
科目のねらい・授業目標 ・基本的な医学用語、看護用語を学ぶ。 ・看護場面でよく使われる英語表現を身につける。		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続けることができる。		
授業内容	方法	備考
1～14. 1) 医学用語・看護用語 (1) 診療科 (2) 看護職位、医療職種 (3) 身体各部位 (4) 病院内各部所  2) 看護場面における英会話 (1) 挨拶 (2) 自己紹介 (3) 受付・案内 (4) バイタルサインの測定 (5) 身体症状の確認 ・症状の有無、部位 ・睡眠状況 ・食事摂取量 (6) 基本情報の聴取 ・家族背景 ・生活歴 ・既往歴 ・現病歴 (7) 看護場面での英会話の実際 (場面設定を行い、英語で話をする)	講義  演習	
15. 試験		
使用する図書 病気になっても困らない英会話 南雲堂		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名  社会学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学・短大講師
科目のねらい・授業目標 ・変動する社会構造や機能、現代家族の特徴を理解できる。 ・社会構造と人間生活との関係、医療との関係について考える。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践できる。		
授業内容	方法	備考
1. 社会学とは 個人と社会 2. 社会学の基本的概念（行為と社会的行為） 3. 社会学の基本的概念（作為・相互行為・社会関係） 4. 社会学的視点とモデル、社会と集団 5. 社会構造と集団、組織、ネットワーク 6. 社会制度と社会変動 7. 地域社会と都市化 8. 性とジェンダー 9. ジェンダーとケア役割 10. 家族とは 11. 家族関係の変化 12. 家族と社会（少子高齢化社会） 13. 医療という社会的行為 14. 現代社会の構造	講義	
15. 試験		
使用する図書		評価方法 筆記試験
参考図書 系統看護学講座基礎 5 社会学 医学書院		
受講上の注意		

科目名  レクリエーション論	時間数 1 単位 15 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 大学講師* 短大講師*
科目のねらい・授業目標 ・生活の中にあるレクリエーションの意義とその考え方や内容について理解できる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護および他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. レクリエーションの基本的理解 1) レクリエーションの意味 2) 人間の欲求とレクリエーション活動 3) QOL を高めるレクリエーション活動 2. 看護におけるレクリエーション活動 1) 看護の基本的要素としてのレクリエーション活動 2) 医療の発展とレクリエーション 3. レクリエーション活動の対象 1) 個人とレクリエーション 2) 集団とレクリエーション 4. レクリエーション活動の場 5. レクリエーション活動のプロセス 1) アセスメント 2) 計画 3) 実施 4) 評価 6. レクリエーション活動の実際 1) 身体活動とレクリエーション 2) 楽しみとしてのレクリエーション 3) 癒しとしてのレクリエーション 4) 治療としてのレクリエーション 7. レクリエーションの指導方法	講義 演習	
8. 試験		
使用する図書	評価方法 筆記試験	
参考図書 西村誠他編 介護・看護現場のレクリエーション—考え方と実践例 昭和堂		
受講上の注意		

## IX 專門基礎分野

【専門基礎分野】 14 科目 14 単位 (360 時間)

専門基礎分野では看護実践を支える基礎として、人体の系統的な理解と、我が国の健康支援、社会保障制度について理解する。

看護の対象となる生活する人としての体のしくみや、疾病や障害を負った際の影響を考える。また、それらをもちながら地域で暮らすための支援や仕組みを学ぶ。そこには、対象者の健康状態に応じた看護を判断・選択するうえでの根拠となり、看護につなげるための基礎となる、人体の構造と機能、疾病・検査・治療、健康の保持増進・疾病からの回復や人々の生活を支える科目を置く。そして、疾病から対象の日常生活への影響を考える看護学的視点を養う。また、社会では様々な発達段階にある人が法律に守られており、社会福祉サービスを利用している。その中で、看護師及び関係職者と看護の対象である患者がどのように法律で守られ、社会福祉サービスを受けることができるかを理解する必要がある。さらに、看護の対象である人々が健康でその人らしく生活するためにどのように社会福祉サービスを受けているかを知り、知識を深めていく。

構成：人体の構造と機能

- |         |              |
|---------|--------------|
| (1) 解剖学 | 1 単位 (30 時間) |
| (2) 生理学 | 1 単位 (30 時間) |
| (3) 生化学 | 1 単位 (15 時間) |

：疾病の成り立ちと回復の促進

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| (1) 病理学              | 1 単位 (30 時間) |
| (2) 疾病論 I            | 1 単位 (30 時間) |
| (3) 疾病論 II           | 1 単位 (30 時間) |
| (4) 疾病論 III          | 1 単位 (30 時間) |
| (5) 治療総論 I           | 1 単位 (15 時間) |
| (6) 治療総論 II          | 1 単位 (30 時間) |
| (7) 形態機能と疾病理解の看護学的視点 | 1 単位 (30 時間) |

：健康支援と社会保障制度

- |                |              |
|----------------|--------------|
| (1) 公衆衛生学      | 1 単位 (30 時間) |
| (2) 社会福祉論      | 1 単位 (15 時間) |
| (3) 保健医療制度論 I  | 1 単位 (30 時間) |
| (4) 保健医療制度論 II | 1 単位 (15 時間) |

	科目	単位	時間	時期	設定理由	科目目標	教育内容
人体の構造と機能	解剖学	1	30	1年前	疾病や治療が人体にどのような変化をもたらすかを理解するためには、人体の形態・構造を理解している必要がある。准看護教育では、看護に必要な人体の仕組みと働きについて学習している。本科目では、これまでの知識をもとに人体の構造機能を系統だて理解する。	人体の形態・構造を系統だて理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞・組織</li> <li>2. 骨格・筋系</li> <li>3. 循環器系</li> <li>4. 消化器系</li> <li>5. 呼吸器系</li> <li>6. 腎・泌尿器系</li> <li>7. 生殖器系</li> <li>8. 内分泌系</li> <li>9. 神経系</li> <li>10. 感覚器系</li> </ol>
人体の構造と機能	生理学	1	30	1年前	体内で様々な物質が変化し、協調しながら身体の健康を維持するしくみを学ぶ必要がある。	人体の機能を系統立てて理解し、それが人体全体にどのような意味をもち、生命維持にどのように関与しているかを理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体リズムと恒常性</li> <li>2. 血液・体液・電解質</li> <li>3. 循環</li> <li>4. 呼吸</li> <li>5. 消化</li> <li>6. 排泄</li> <li>7. 内分泌</li> <li>8. 運動</li> <li>9. 神経</li> <li>10. 感覚</li> </ol>
	生化学	1	15	1年後	体内で様々な物質が変化し、協調しながら身体の健康を維持する仕組みを学ぶ必要がある。	1. 生体内に存在する化学物質の作用機序を理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体を構成する物質</li> <li>2. 生体内の物質代謝</li> <li>3. 遺伝情報とその発現</li> <li>4. シグナル伝達・がん</li> </ol>
疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30	1年前	疾病による対象の身体的な変化を理解するため、病的な状態のメカニズムを学ぶ。	<p>疾病の成り立ちを理解し、生体における異常について基礎的知識を学び、対象の健康上の問題を理解する。</p> <p>疾病による対象の身体的な変化を理解するため、病的な状態のメカニズムを理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病因論</li> <li>2. 細胞の障害</li> <li>3. 先天異常と遺伝子異常</li> <li>4. 代謝障害</li> <li>5. 循環障害</li> <li>6. 炎症</li> <li>7. 免疫異常</li> <li>8. 腫瘍</li> <li>9. 感染症</li> <li>10. 老化と死</li> </ol>

疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ (呼吸器系、循環器系、消化器系)	1	30	1年前後	病理学の基礎的知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び、疾患をもった対象の理解につなげる。	系統別疾患の病態、検査、診断、治療について理解する。	呼吸器・循環器・消化器疾患 1. 病態生理と主な症状 2. 診断する主な検査 3. 主な治療
	疾病論Ⅱ (神経精神機能系、脳神経系、骨格・筋肉系)	1	30	2年前			神経精神機能・脳神経・骨格・筋肉 1. 病態生理と主な症状 2. 診断する主な検査 3. 主な治療
	疾病論Ⅲ (内分泌代謝系、小児疾患)	1	30	2年前			内分泌代謝 1. 病態生理と主な症状 2. 診断する主な検査 3. 主な治療 小児疾患 (小児内科) 病態・症状・診断 検査、治療
	治療総論Ⅰ	1	15	1年後	疾病のみではなく、病む人間を対象として回復を目指そうとする総合的な関わりが治療や検査のねらいであると学ぶ。	1. 主な治療や検査について理解し、治療や検査時に必要な看護と関連つけて考える能力を養う。 2. 他職種間での看護の役割を理解できる。	・治療とはなにか ・薬物療法 ・手術療法・麻酔法 ・食事療法 ・リハビリテーション (理学療法・作業療法・言語療法) ・放射線療法 ・臨床検査 ・他職種連携の中の看護の役割
	治療総論Ⅱ	1	30	2年前後			
	形態機能と疾病理解の看護学的視点	1	30	1年後	人体の構造と機能と日常生活行動を関連させながら、その生活の中で、なぜ疾病に罹患し、生活行動へと影響するのかを学ぶ。	1. 対象の日常生活行動の体や生理的な機能のしくみを理解できる。 2. 対象の生活習慣から、なぜ疾病に罹患するのかを考えることができる。 3. 疾病が対象の日常生活へどのように影響するのかを関連図で表すことができる。	1. 日常生活 (話す、聞く、眠る、お風呂に入る) にかかわる形態と機能・生命活動を維持する仕組み 2. 1. から対象を生活者として捉え、疾病の様々な症状が日常生活に与える影響を考える 3. 主な疾患の症状、日常生活への影響 4. 関連図の作成

健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30	2年前	保健・医療・福祉のチームメンバーである看護師には、生活者の健康推進や予防活動を行うために、公衆衛生視点から、地域の健康・保健を推進する力をサポートする役割はある。そのため、公衆衛生上の問題を理解し、具体的なその活動内容を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>生活者の健康づくりに果たす公衆衛生の役割について理解できる。</li> <li>人間を取り巻く環境について理解できる。</li> <li>生活者の健康推進や予防活動を行うための看護師の役割が理解できる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公衆衛生の理念</li> <li>公衆衛生の技術</li> <li>医療の動向と医療保障</li> <li>公衆衛生と国際化</li> <li>公衆衛生と地域保健 地域保健、母子保健、学校保健、成人・老年保健、精神保健、難病保健</li> <li>公衆衛生と環境保健</li> </ul>
	社会福祉論	1	15	1年前	少子高齢化社会の中で人々の生活を担う看護専門職として福祉の連携・協働は必要であり、基本的な日常生活に必要な社会福祉について、その概念、制度、現状を学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>人々が生活者として生きる上で必要な社会制度、政策、団体、人材などのサポートシステムと、社会福祉活動の実際について理解する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療保障・介護保障</li> <li>所得保障</li> <li>公的扶助</li> <li>社会福祉の分野とサービス</li> <li>社会福祉実践と医療</li> <li>看護</li> </ul>
	保健医療制度論Ⅰ	1	30	1年前後	生活者の健康生活の維持、向上に対応した保健医療制度の基礎的知識を学ぶ。 また、看護師という社会的責任がある者として常に「法」を意識して業務を遂行するための法令について学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>看護職としての住民の健康な生活を支えるための制度とその活用方法を理解する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生行政のしくみ</li> <li>保健対策の動向</li> <li>各保健領域における組織と活動</li> <li>保健医療の国際協力</li> <li>保健師助産師看護師法</li> <li>関係法規</li> <li>保健医療の役割</li> </ul>
	保健医療制度論Ⅱ	1	15	1年後		<ol style="list-style-type: none"> <li>人々の健康生活を維持、向上させるための保健医療制度の体系を学ぶと共に、その知識を活用できる能力を養う。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療の現状と将来展望</li> <li>医療法規の概要</li> <li>医療過誤</li> </ul>

科目名  解剖学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学講師 医師
科目のねらい・授業目標 ・疾病や治療が人体にどのような変化をもたらすかを理解するために、人体の形態・構造を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 細胞・組織 2. 骨格・筋系 I 頭頸部・体幹 3. 骨格・筋系 II 上肢・下肢 4. 循環器系の構造 5. 末梢循環系の構造 6. 口・咽頭・食道の構造と機能 7. 腹部消化管の構造と機能 8. 呼吸器の構造 9. 脊髄と脳 10. 体液の調節と尿の生成 11. 生殖・発生のしくみ 12. 内臓機能の調節 13. 神経系の構造と機能 14. 感覚機能と上行伝導路、体機能の防御	講義	
15. 試験		
使用する図書 坂井建雄他 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書 高野廣子 解剖生理学 南山堂 橋本尚詞他 新体系看護学講座 解剖生理学 メヂカルフレンド社 横地千仞他 カラーアトラス人体 医学書院 下正宗編集 人体の機能と変化 医学書院 薄井坦子 ナースが視る人体 講談社		
受講上の注意		

科目名  生理学	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 大学講師 医師
科目のねらい・授業目標 ・ 疾病や治療が人体にどのような変化をもたらすかを理解するために、人体の機能を系統立てて理解し、それが人体全体にどのような意味をもち、生命維持にどのように関与しているかを理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容 1. 生体リズムと恒常性 1) サーカディアンリズム 2) 内部環境の恒常性 2. 血液・体液・電解質 1) 血液 3. 2) 体液 3) 電解質 4. 循環 1) 心臓 5. 2) 血管系 3) リンパ系 6. 呼吸 1) 換気 2) 呼吸運動 3) 呼吸調節 7. 消化 1) 咀嚼・嚥下 2) 胃・小腸・大腸 8. 3) 肝臓・胆嚢 4) 膵臓 5) 消化管運動と反射 9. 排泄 1) 尿の生成 10. 内分泌 1) ホルモンの種類 2) ホルモン分泌の調節 3) ホルモンの機能 11. 運動 1) 骨・軟骨 2) 筋収縮 3) 代謝異常 12. 神経 1) 神経細胞と情報伝達 13. 2) 中枢神経系の機能 3) 末梢神経系の機能 14. 感覚 1) 体性感覚 2) 平衡感覚 3) 視覚・聴覚味覚・嗅覚 4) 内臓感覚	方法 講義	備考
15. 試験		
使用する図書 坂井建雄他 系統看護学講座 解剖生理学 医学書院	評価方法 筆記試験	
参考図書 目でみるからだのメカニズム 医学書院 生理学はおもしろい 医学書院 生理学 建帛社		
受講上の注意		

科目名  生化学	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 大学、短大講師
科目のねらい・授業目標 ・生体内に存在する化学物質の作用機序を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 生化学を学ぶための基礎知識  2. ビタミンと補酵素  3. 糖質の構造・機能・代謝  4. 脂質の構造・機能・代謝  5. タンパク質の構造・機能・代謝  6. 遺伝子の複製・修復・組換え  7. シグナル伝達・がん	講義	
8. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 専門基礎Ⅱ 生化学 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名  病理学	時間数 1 単位 30 時間  時期 1 年次前期	講義担当者 病理担当医師*
科目のねらい・授業目標 ・疾病の成り立ちを理解し、生体におこる異常についての基礎的知識を学び、対象の健康上の問題を理解する。 ・疾病による対象の身体的な変化を理解するため、病的な状態のメカニズムを理解する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容  1. 病因論 2. 細胞の障害 3. 4. 先天異常と遺伝子異常 1) 先天異常                      2) 遺伝子異常 3) 遺伝子疾患                  4) 染色体異常による疾患 5) 胎児の障害 6) 先天異常・遺伝性疾患の診断 5. 6. 代謝障害 1) 物質沈着                      2) 脂質代謝異常と疾患 3) タンパク質代謝障害と疾患 4) 糖質代謝異常と疾患    5) その他の代謝障害と疾患 7. 循環障害 8. 炎症 1) 炎症の原因と経過          2) 創傷治癒 3) 炎症の治療                    4) 炎症の各型 9. 10. 免疫異常 1) アレルギー                    2) 自己免疫疾患 3) 膠原病                         4) 移植と免疫 5) アナフィラキシー 11. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類          2) 腫瘍の発生病理 3) 悪性腫瘍の転移と進行度    4) 腫瘍の診断と治療 12. 13. 感染症 1) 病原体の感染症              2) 宿主の防御機構 3) 主な病原体と感染症        4) 感染症の治療 5) 感染症の予防 14. 老化と死	方法 講義	備考
15. 試験		
使用する図書 よくわかる病理学（専門基礎講座） 金原出版		評価方法 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 公衆衛生学 医学書院		
受講上の注意		

科目名  疾病論 I (呼吸器系・循環器系・消化器系)	時間数 1 単位 30 時間  時期 1 年次前後期	講義担当者  医師*
科目のねらい・授業目標 ・病理学の基礎知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び疾患をもつ対象の理解につなげる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1～5. 呼吸器疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	評価は、呼吸器系（10h）、循環器系（10h）、消化器（10h）
6～8. 循環器疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解 9～10. 循環器疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	それぞれの単元で筆記試験をおこなう。
11～13. 消化器疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解 14～15. 消化器疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
使用する図書 系統看護学講座 成人看護学 (2) (3) (5) 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名 疾病論Ⅱ（神経精神機能系、脳神経系、  骨格・筋肉系）	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 医師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・病理学の基礎知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び疾患をもつ対象の理解につなげる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1～5. 神経精神機能系（10 時間） 1) 神経精神機能系の疾患と病態生理、症状、診断 2) 検査 3) 治療	講義	評価は神経精神機能系（10h）、脳神経（10h）、骨格・筋肉系
6～7. 脳神経疾患（内科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	（6h）それぞれの単元で筆記試験をおこなう。
8～10. 脳神経疾患（外科）の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	
11～15. 骨格・筋肉系疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義 演習	骨格・筋肉系 ※医師（6h） ※専任教員（4h）
使用する図書 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 成人看護学（7）（10） 医学書院		評価方法 筆記試験 課題
参考図書		
受講上の注意		

科目名  <b>疾病論Ⅲ（内分泌代謝系・小児疾患）</b>	時間数 1 単位 30 時間  時期 2 年次前期	講義担当者  医師＊
科目のねらい・授業目標 ・病理学の基礎知識をふまえ、系統別疾患の病態、検査、診断、治療を学び疾患をもつ対象の理解につなげる。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1～5. 内分泌代謝疾患の病態、症状、検査、診断、治療 1) 症状とその病態生理 2) 検査と処置・治療 3) 疾患の理解	講義	評価は内分泌代謝系（10h）、小児疾患（20h）、それぞれの単元で筆記試験をおこなう。
6～15. 小児疾患の病態、症状、検査、診断、治療（20時間） 1) 小児内科 (1) 出生前診断・染色体異常 (2) 新生児の疾患 (3) 呼吸器疾患 (4) 循環器疾患 (5) 消化器疾患 (6) 悪性新生物 (7) 血液・造血器疾患 (8) 腎・泌尿器疾患 (9) 神経疾患 (10) 代謝性疾患 (11) 免疫・アレルギー疾患 (12) 感染症 (13) 事故・外傷 (14) 運動器疾患 (15) 精神疾患	講義	
使用する図書 系統看護学講座 成人看護学（6） 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院		評価方法 筆記試験
受講上の注意		

科目名  治療総論Ⅰ（薬物療法）	時間数 1 単位 15 時間  時期 1 年次後期	講義担当者  薬剤師＊
科目のねらい・授業目標 ・薬物療法について理解し、安全な看護に必要な知識を習得する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 薬物療法とは  2～5. 薬物療法の実際  1) 薬物の作用  2) 薬物の濃度  6. 医薬品、および処方箋に関する法令など  7. 薬物量（分量）	講義	
8. 試験		
使用する図書 病気の成り立ちと回復の促進〔3〕 薬理学 医学書院 治療法概説：メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名  <b>治療総論Ⅱ</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前後期	講義担当者 医師* 栄養士* 理学療法士* 作業療法士* 言語療法士* 検査技師*	
科目のねらい・授業目標 ・主な治療や検査について理解し、看護に必要な知識を修得する。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践できる。 4. 保健・医療・福祉のチームの一員として、看護および他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。			
授業内容	方法	備考	
1. 手術療法の目的と意義 外科的侵襲と生体の反応 2. 麻酔とは 麻酔の種類 麻酔管理 疼痛への対応 3. 救急医療 4. 心肺蘇生 (BLS・AED)	講義・演習	医師	
5. 食事療法の目的・栄養学の基本・病院食 6. 疾患と栄養療法・特殊栄養法		栄養士	
7. リハビリテーション療法の目的 8. 理学療法 9. 作業療法 10. 言語療法		理学療法士 作業療法士 言語療法士	
11. 放射線療法とは 目的・種類と特徴 12. 放射線療法の適応・進め方 13. 放射線障害と放射線防護		医師	
14. 臨床検査の基礎知識 役割と種類 15. おもな臨床検査		検査技師	
使用する図書 新体系看護学講座 治療法概説 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院		評価方法 筆記試験 (試験は單元ごとに別時間で実施)	
受講上の注意			

科目名 形態機能と疾病理解の看護学的視点	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・解剖学・生理学・生化学で習得した知識を活用し、日常生活における行動から体の変化を学ぶことで、体の仕組みを理解する。 ・疾病の成り立ちと関与する因子を理解し、対象の生活背景などの要因からくる疾患と、その人の状況・状態を生む背景や生活に及ぼす影響を考えることができる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容 1～3. 何のための生活行動か 1) 恒常性維持のための物質の流通 2) 恒常性維持のための調節機構 4～6. 日常生活にかかわる形態と機能・生命活動を維持する仕組みについて 1) 息をする 2) 動く 3) 食べる/話す聞く 4) トイレに行く 5) 眠る/お風呂に入る 6) 外部環境とからだ 7. 8. 対象の体の機能と生活のつながり 9～13. 生活習慣と疾病との関連 1) 対象の生活習慣と疾病 2) COPD・心不全患者の病態・生理 3) COPD・心不全患者の生活習慣と病態生理 4) 疾患の病態関連図と日常生活への影響の共有と検討 14. 成果発表とリフレクション	方法 講義 演習 *プレゼンテーション 演習	備考 *事前学習 形態機能学の各章を読み、それぞれまとめる *関連図の作成
15. 試験		
使用する図書 看護につなぐ人体の構造と機能 照林社 系統看護学講座 成人看護学 (2) (3) 疾患別看護過程+病態関連図 医学書院	評価方法 筆記試験 課題	
参考図書 系統看護学講座 解剖学 系統看護学講座 生理学 系統看護学講座 生化学 よくわかる病理学 (専門基礎講座) 金原出版 看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会		
受講上の注意 *講義前に事前課題に取り組む。		

科目名  公衆衛生学	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 保健師もしくは 保健関係担当者*
科目のねらい・授業目標 ・生活者の健康づくりに果たす公衆衛生の役割について理解する。 ・人間を取り巻く環境問題について学ぶ。 ・生活者の健康推進や予防行動を行うための看護師の役割が理解できる。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 公衆衛生の理念 2～3. 公衆衛生の技術 4. 医療の動向と医療保障 5. 公衆衛生と国際化 6～10. 公衆衛生と地域保健 1) 地域保健の意義と具体的活動 2) 母子保健の意義と具体的活動 3) 学校保健の意義と具体的活動 4) 成人・老人保健の意義と具体的活動 5) 精神保健の意義と具体的活動 6) 難病保健の意義と具体的活動 11～15. 公衆衛生と環境保健 1) 生活環境の問題と保全 2) 産業保健の意義と具体的活動 3) 感染症・危機管理の問題と具体的活動 4) 災害保健の意義と具体的活動	講義	
使用する図書 系統看護学講座 公衆衛生学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会		評価方法 筆記試験 *テストは講師 毎に外部時間で 実施
参考図書		
受講上の注意		

科目名  <b>社会福祉論</b>	時間数 1 単位 15 時間  時期 1 年次前期	講義担当者 社会福祉士または ソーシャルワーカー*
科目のねらい・授業目標 ・人々が生活者として生きる上で必要な社会制度、政策、団体、人材などのサポートシステムを理解する。 ・社会福祉活動の実際、多職種との連携について理解する。		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容 1. 社会保障制度と社会福祉 2. 医療保障 1) 医療保障制度の沿革、医療保障制度の構造と体系 2) 健康保険と国民健康保険、高齢者医療制度 3. 所得保障 1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度 3) 社会手当 4) 労働保険制度 4. 公的扶助 1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度、生活保護制度のしくみ 2) 低所得者対策、近年の動向 5. 社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉 2) 障害者福祉 3) 児童福祉 6. 7. 社会福祉実践と医療・看護との連携	方法 講義	備考
8. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名  保健医療制度論Ⅰ	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前後期	講義担当者 保健医療従事者＊
科目のねらい・授業目標 ・看護職として住民の健康な生活を支えるための制度とその活用方法を理解する。		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実施することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 法の概念 厚生行政のしくみ 地域保険法 2. 健康増進法 3. 労働法と社会基盤整備 4～5. 精神保健及び精神保健福祉に関する法律 6. 母子保健関連法 感染症法 予防接種法 7. 検疫法 がん対策基本法 主な厚生統計調査	講義	保健制度
8. 試験		
9～11. 我が国の医療提供体制 1) 我が国の医療制度の特徴 2) 医療計画推進の経過 3) 医療関係者の現状 医師・看護師他 12. 医療法規 13. 医療保障の現状と課題 医療保障 医療保険 14. 公費医療 15. 医療保障の今後の課題	講義	医療制度
16. 試験		
使用する図書 新体系看護学全書 現代医療論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院 国民衛生の動向		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名  保健医療制度論Ⅱ	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・人々の健康生活を維持、向上させるための保健医療制度の体系を学ぶと共に、その知識を活用できる能力を養う。		
DP との関連 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実施することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
	授業内容	方法 備考
1～6. 地域に暮らす人々の生活を支える保健医療制度 1) 保健福祉センターの概要 ・業務内容 ・地域の特徴、人口構造、人々の健康レベル、生活状況 ・地域の課題と取り組み 2) 住民の主体的な健康づくりに向けた活動支援  7. 8. まとめ 発表会	講義 演習	専任教員  <事前課題> ・政策、施策、財政状況（行政ホームページ参照）  ・グループ活動（金沢市以外の保健所管轄別）
使用する図書 新体系看護学全書 現代医療論 メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門基礎 看護関係法令 医学書院 国民衛生の動向		評価方法 ・グループ学習参加状況 ・発表状況 ・レポート課題
参考図書 1. 現代医療論 メヂカルフレンド社 2. 看護関係法令 医学書院 3. 国民衛生の動向		
受講上の注意		

## X 專門分野

【専門分野】 34 科目 34 単位 (825 時間)

基礎看護学において、対象を生活者として捉え、形態機能学の視点から看護を考え、看護過程の基本的な問題解決型思考をもち、看護実践につながる臨床判断能力を養う。そして、その知識・技術を基盤とし、各領域の特徴を踏まえた看護につなげる。

各領域では、特徴を踏まえながら生活者である対象がその人らしく生きるための健康の維持・増進や健康段階に応じた看護が提供できるよう、学生自身が自ら学び、深める教育方法をとる。そのなかには、対象が暮らす地域を知る教育内容をおき、地域性を踏まえた支援にもつなげ、また、その対象が何らかの健康障害をおった際には退院後もその人らしく暮らすことができるよう、多職種連携の必要性や社会資源の活用を取り入れた看護を考える力を養う。

構成：基礎看護学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8 単位 195 時間

地域・在宅看護論・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 単位 135 時間

成人看護学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4 単位 90 時間

老年看護学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 単位 90 時間

小児看護学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 単位 75 時間

母性看護学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 単位 90 時間

精神看護学・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 単位 75 時間

看護の統合と実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 単位 75 時間

\*印は実務経験のある担当者である。

## 基礎看護学

地域医療構想が進む中、看護基礎教育における基礎看護学としては、看護師の活動の場が多様化しており、看護の対象を生活者として捉え、その人の健康問題を解決していく考え方をもつ必要がある。その際には、対象が生活の中で健康問題を抱えながらも、その人の状況・状態にあった生活をするための援助を考える必要がある。そのため、基礎看護学としては、准看護教育の積み上げを基盤とし、「看護学概論」での看護学としての概要から、科学的根拠もち、看護の基本となる根拠をもって体をアセスメントし看護につなげる「フィジカルアセスメント」の科目をおく。また、人間関係論の教育内容を基礎に、看護の対象理解を深め信頼関係構築に向けた援助や、アサーティブに意見交換ができる技術を身につけるための「人間関係技術」をおく。さらに、教育学の教育内容を基礎に、看護の対象が自らの健康問題の解決や保持・増進するための支援の方法として「学習支援」をおく。そして、形態機能学の視点から看護を捉え、ヘンダーソン看護論を使って対象の真のニーズを考える。更に、科学的根拠に基づき体・心・社会の3側面から、看護における判断ができるための問題解決能力を養うための教育内容である「看護過程」をおき、さらにそれらの知識を統合して臨床判断能力の基本モデルの知識とその実践につなげる「対象の状態に応じた看護実践」をおく。

8科目の基礎看護学の教育内容を基本に置き、共通事例を教育内容に取り込み、授業を展開していく。さらに、その基礎看護学での共通事例を軸に、各専門領域での特徴を踏まえた教育内容へつなげていく。

基礎看護学実習では、コミュニケーション能力を養うため、自己理解・他者理解をしながら実際の対象理解につなげるための教育内容をおく。また、個性のある看護につなぐため、問題解決思考力を活用し臨床判断能力を育成するために、日々の看護実践の中で、対象の状態に応じた看護を考える教育内容をおく。さらに、基礎看護学実習での学びを振り返り、課題を明確にし、専門領域への実習につなげていく。

目的：看護に必要な基礎的知識、技術および態度を学ぶことで看護を実践できるための基礎的能力を養う。

- 目標：1. 看護の対象である人間について理解し、看護とは何かを考え看護の本質を理解する。また、専門職としての倫理及び看護の役割を理解する。
2. 生活者である対象を理解し、健康問題が現れたときや、その人のからだにあった生活をするための援助を考えることができる。
3. 看護実践における対象との相互関係の成立、発展させるための理論と技術を学ぶ。
4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な知識・技術を習得し、臨床判断の基礎的能力を養う。
5. 看護における研究の意義と方法を理解し、研究的態度を養う。

## 授業実施計画

授業科目	履修単位	第三看護学科		
		1年次	2年次	3年次
看護学概論	1単位(30時間)	30時間		
フィジカルアセスメント	1単位(30時間)	30時間		
ヘンダーソン看護論演習	1単位(15時間)	15時間		
人間関係技術	1単位(15時間)		15時間	
学習支援	1単位(15時間)		15時間	
看護過程	1単位(30時間)		30時間	
対象の状態に応じた看護実践	1単位(30時間)		30時間	
看護研究	1単位(30時間)		30時間	
基礎看護学実習	2単位(90時間)		90時間	

## 科目毎のねらい・主な教育内容

科目	ねらい	学習内容
看護学概論	<p>看護の基本となる主要概念を理解し、各看護学に発展していく基礎的知識、態度の習得を目的とする。</p> <p>多様な場における看護の役割を認識し、他職種との連携の必要性を理解し、主体的に考える力を養う。</p> <p>また、社会の変化に対応する看護の機能や役割、専門職業人としての態度や倫理を学び、自らの看護観を形成していく力を養う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護の概念</li> <li>・看護の主要概念</li> <li>・看護理論</li> <li>・看護の対象</li> <li>・看護と健康</li> <li>・看護の役割と機能</li> <li>・継続看護・多職種連携</li> <li>・看護における倫理</li> <li>・看護をめぐる制度と政策</li> <li>・看護職のキャリア開発</li> <li>・看護における組織と管理</li> </ul>
フィジカルアセスメント	<p>科学的に人体の状態をアセスメントできる知識と技術を習得し、看護に影響を与える情報を抽出して、看護を展開していく視点と方法を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルスアセスメントとは</li> <li>・フィジカルアセスメントとは</li> <li>・スクリーニング</li> <li>・系統別アセスメント</li> <li>・フィジカルアセスメントの実際</li> </ul>

ヘンダーソン看護論演習	ヘンダーソンの理論を学ぶことで、対象の個別的なニーズの充足状態を考え、基本的な援助技術の展開につなげる。 看護の専門職として、看護の独自性を考え対象の生活行動を援助するということに焦点をあてる必要性を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘンダーソン看護論</li> <li>・ヘンダーソン看護論とニーズの充足している対象の真のニーズとは</li> <li>・事例作成：ニーズが充足された対象とは</li> </ul>
人間関係技術	自己を知り、他者を理解するためのコミュニケーションの基本的な知識を習得することで、看護の対象者及び協働する医療チームメンバーとの良好な人間関係を形成する能力を育成する基礎とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係技術</li> <li>・患者－看護師関係におけるコミュニケーション技術</li> <li>・コミュニケーション技術の訓練と記録</li> <li>・医療チームにおける専門家としてのコミュニケーション技術</li> </ul>
学習支援	患者指導に用いる技法や教材・教具についての知識を習得し、計画的になされる教育の具体的で適切な個別指導を考える基礎的能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護における学習支援</li> <li>・学習支援のプロセス</li> <li>・学習支援の実際</li> </ul>
看護過程	看護実践の基礎となる問題解決方法について学ぶ。看護過程の基盤となる考え方とその概要を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘンダーソンの看護理論</li> <li>・問題解決過程</li> <li>・看護過程の展開</li> </ul>
対象の状態に応じた看護実践	看護の対象となる健康に関するニーズや問題を分析、解釈し、倫理的な配慮をしながら適切な看護を導く力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床判断とは</li> <li>・事例を用いたコンセプト学習 気づく・解釈する・反応する 省察する</li> <li>・リフレクション</li> <li>・看護実践に向けての課題検討</li> </ul>
看護研究	看護研究の実践により看護知識の科学的基盤が確立されてきている。看護学生にとって自分の看護を振り返り、幅広い視野で看護を探究する姿勢を持つことが求められる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護研究とは</li> <li>・看護研究の意義と目的</li> <li>・研究の倫理</li> <li>・研究の種類</li> <li>・研究のプロセス</li> <li>・クリティーク</li> </ul>

基礎看護学実習	<p>看護の実際から、対象と関係構築のためのコミュニケーション技術を活用し、科学的根拠に基づいたアセスメントをおこないながら、対象の健康状態に応じた看護を実践する。その中には、実践者としての思考となる臨床判断をして、適切な看護を選択できる能力を養う。また、基礎的な能力として、対象を生活者として捉えながら、日々のかかわりや、看護を考える能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象を生活者として理解するための療養環境および実習環境</li> <li>・意図的な情報収集</li> <li>・対象のその場に応じた看護実践</li> <li>・コミュニケーション技術</li> <li>・プロセスレコード</li> <li>・リフレクション</li> </ul>
---------	--	---

## 地域・在宅看護論

看護を取り巻く環境は時代とともに変化しており、国民の意識も安全・安心の重視とともに、医療の質を重視する方向に転換してきている。また、医療から地域へと対象の捉え方がシフトしている社会のニーズに対応し、看護においても活躍の場を広げ、質の高い看護の提供が求められている。地域包括ケアシステム等を促進するために、地域で暮らす人々とパートナーシップに基づき、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援する能力を育成する必要がある。

1年生の早い時期から基礎看護学と並行し、生活の基盤である「地域」を理解する科目として、「地域と暮らし」を学習する。地域と暮らしを支えるためには、人々の暮らす地域と環境を理解し、健康との関連を考えることが重要である。また、「生活」の視点をもって人を見るためには、コミュニケーションスキルを高める必要がある。1年次にフィールドワークを通じて地域に出ることで、地域に暮らす人々と交流し、そこで暮らす様々な世代の生活と健康について考え、生活の視点をもつ科目立てとする。家族看護では、家族看護を実践するために必要な知識・援助方法を学び、家族看護を理解する。地域・在宅看護総論では、地域で暮らす人々とその家族の看護の基盤となる概念を理解するために、暮らしを支える場、法・制度・施策、活用方法などを学ぶ。また、対象と看護の場について学び、総論での学びを地域・在宅看護援助論で発展させる。地域で暮らす人々の生活を支える技術と看護のアセスメント、医療技術を学び、地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントと看護を理解することを目指す。

地域・在宅看護論実習では、看護の対象である地域に暮らす人々が生活し続けるための支援を学ぶ。そして、地域に密着した看護活動の場で、利用者や家族の自立・自律支援に向けた生活支援の実際を理解する。また、必要な時に必要なサービスを利用しながら、自分が暮らしたい場所で生活するための支援を学ぶ。

目的：地域で暮らす人々と場を理解し、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために必要な看護の基礎的能力を養う。

目標：

1. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。
2. 地域で生活する人々と、その家族の看護について理解する。
3. 地域で暮らす人々とその家族の看護の基盤となる概念を理解する。
4. 暮らしを支える看護に必要な法・制度・施策を理解し、活用方法を考える。
5. 看護が提供される多様な場を理解する。
6. 健康と暮らしを支える看護を理解する。
7. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントを理解する。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第三看護学科		
		1年次	2年次	3年次
地域と暮らし	1単位 (30時間)	30時間		
家族看護論	1単位 (15時間)	15時間		
地域・在宅看護総論	1単位 (30時間)	30時間		
地域・在宅看護援助論 I	1単位 (30時間)		30時間	
地域・在宅看護援助論 II	1単位 (30時間)		30時間	
地域・在宅看護論実習 I	2単位 (64時間)			64時間
地域・在宅看護論実習 II	2単位 (64時間)			64時間

科目毎のねらい・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
地域と暮らし	<p>地域で暮らしている個人及び家族の健康や暮らしを支援するために、生活の基盤である「地域」を深く理解する。</p> <p>グループ活動を通して石川県の地域を知り、暮らしや人々との繋がりがあることを理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暮らしの基盤としての地域</li> <li>2. 地域で暮らす地域・在宅看護の対象</li> <li>3. 地域（石川県）に暮らす人々の生活</li> </ol>
家族看護論	<p>わが国は少子・高齢化が進み様々な社会問題に直面している。家族形態も変化している中で、家族を看護の対象として理解する必要がある。家族を捉える視点や理論に基づいた家族看護の考え方、家族の力を発揮できる支援方法を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族を看護すること</li> <li>2. 看護学における家族の理解</li> <li>3. 家族看護過程</li> <li>4. 家族への看護アプローチ</li> </ol>
地域・在宅看護総論	<p>地域・在宅看護論の対象、健康と暮らしを支える看護、看護が提供される多様な場を理解する。</p> <p>地域における看護職の役割など基礎的能力を養う。そして、地域で暮らし続けることを支援するための仕組みやマネジメント、法と制度、施策を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護論の対象</li> <li>2. 看護が提供される多様な場</li> <li>3. 地域包括ケアシステムの意義と概念</li> <li>4. 在宅看護にかかる法令・制度とその活用方法</li> <li>5. 地域で暮らし続けるための支援</li> </ol>
地域・在宅看護援助論 I	<p>地域で暮らす人々と家族の健康の保持増進を支援する看護について理解を深める。</p> <p>生活する場に訪問する看護師の姿勢について学び、信頼関係形成のあり方を理解する。地域で暮らす人々と家族が、その人らし</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する人々の生活を支える技術</li> <li>2. 地域で暮らし続けるための支援の実際</li> </ol>

	く生活するための基本的な生活援助技術と医療処置や支援の実際を理解する。	
地域・在宅 看護援助論Ⅱ	地域で療養生活を送る人と、家族の看護に必要なアセスメントを生活者の視点で考える。療養生活に必要な医療処置、社会資源の活用、多職種連携・協働を理解し、地域に暮らす人々と家族が、住み慣れた地域で暮らし続けるための支援を考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域・在宅看護における時期別の看護</li> <li>2. 地域で暮らす人々と家族への看護 <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性疾患もつ人とその家族への看護</li> <li>・終末期にある人とその家族への看護</li> <li>・難病で療養生活を送る人とその家族への看護</li> </ul> </li> </ol>
地域・在宅 看護論実習Ⅰ	<p>地域で暮らす人々と、多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために実践されている地域包括ケアシステムをとおして、看護の役割、多職種連携のあり方を理解することを目的とする。</p> <p>地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。地域における人々の暮らしや健康を支援する社会の基盤を理解し、地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念理解を深める。また、地域で生活する人々とその家族（介護者）の在宅看護の実際から、地域・在宅看護のあり方を考える。これらを目指し、多様な場での実習を通し学ぶ。</p>	<p>【市町保健センター】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健センターの役割と機能を理解する。</li> <li>2. 関係機関、関係職種との多職種連携における看護師の役割を考える。</li> </ol> <p>【地域包括支援センター・障害者基幹相談支援センター】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と施設を利用する人々を理解する。</li> <li>2. 地域のケアニーズを把握し、対象者に応じた支援を理解する。</li> </ol> <p>【入退院支援に関わる部門】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入退院支援に関わる部門の役割を理解する。</li> <li>2. 保健・医療・福祉領域の関係機関・関係職種の連携機能と社会資源を理解する。</li> <li>3. 対象が安心して地域で暮らすために、地域で生活している人々とその家族の特性をふまえた看護実践を理解する。</li> <li>4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。</li> </ol>
地域・在宅 看護論実習Ⅱ		<p>【訪問看護ステーション】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活している人々と家族を生活者として捉え、生活のなかでの支援の実際を理解する。</li> <li>2. 地域で療養している人々の生活と健康上の課題、家族関係を理解する。</li> <li>3. 関係機関、関係職種との連携・協働について学び、保健・医療・福祉チームの</li> </ol>

		<p>一員としての看護の役割を理解する。</p> <p><b>【通所介護施設実習】</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. デイサービスセンター・デイケアセンターを利用している人々を理解する。</li><li>2. 利用者の自立と生活習慣に応じた援助の実際を理解する。</li><li>3. 地域で暮らす人々と家族を支援する施設の役割と看護の役割について考える。</li></ol>
--	--	--

## 成人看護学

成人看護学は、成人期にある発達段階に応じた健康の保持・増進と健康上の諸問題をもつ成人及びその家族に対する看護の実践に必要な基礎的能力を養う。少子高齢化が進むに伴い、社会構造や医療構造が変化し、地域包括ケアシステムの構築が進められている。それに伴い、成人期の人々を取り巻く環境も目まぐるしく変化している。そのことに影響を受けると考えられる健康問題も複雑化、多様化してきている。成人期は、社会の担い手として仕事を持ち、働き、生活を営んでいる。とくに成人は、就職、結婚や出産・育児、定年など複数の転機を体験し、社会的役割や期待を担いつつ心身ともに成長していく。そのような中で看護においては、健康な人はもちろん、思いもよらない健康状態の急激な変化、病気や障害を持ちながらの生活の再構築、逃れられない死に直面した人々にどのようなケアを行うことが必要なのかを考えていくことで、成人期にある対象が健康障害を抱えながらも住み慣れた地域でうまく付き合いながら、社会的役割を果たし生活できるように支えていくことを学ぶ必要がある。

目的：成人期にある対象を理解し、発達段階に応じた健康の保持・増進と健康上の諸問題をもつ成人及びその家族に対する看護の実践に必要な基礎的能力を養う。

目標：

1. 地域で生活する成人期にある対象の各発達段階の特徴を知り、身体的・心理的・社会的側面から対象を理解する。
2. 成人保健の動向を知り、成人期にある対象の最適な健康の重要性とその状況に応じた看護を理解する。
3. 地域で生活する成人期の対象および家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。
4. 成人期にある対象の健康上の問題を理解し、看護を実践できる知識・技術・態度を習得する。
5. 対象の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践できる。

### 授業実施計画

授業科目	履修単位	第三看護学科		
		1年次	2年次	3年次
成人看護学概論	1単位 15時間	15時間		
成人看護学援助論Ⅰ	1単位 30時間		30時間	
成人看護学援助論Ⅱ	1単位 30時間		30時間	
成人看護学援助論Ⅲ	1単位 15時間		15時間	
成人看護学実習	2単位 90時間			90時間

### 科目毎のねらい・主な教育内容

科目	ねらい	学習内容
成人看護学概論	<p>成人の各発達段階の特徴および、成人を取り巻く環境と生活からみた健康を理解する。</p> <p>大人の学習理論に基づいた行動変容の促進を促す看護アプローチの基本を理解する。</p> <p>健康に影響を与える顕在的・潜在的要因を理解し、予防のため日常生活行動の修正を支援する看護の重要性を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人の各発達段階の健康の理解</li> <li>2. 成人への看護アプローチの基本</li> <li>3. 健康をおびやかす要因と看護</li> </ol>

	健康障害を持ちながら生活する対象に必要な看護及び多職種の役割や他の職種と連携・協働する必要性を理解する。	4. 健康障害を持ちながら生活する対象に必要な支援
成人看護学 援助論Ⅰ 急激な健康危機 状況から回復を 促す看護	<p>健康生活の急激な破綻からの回復を促す看護として、手術療法を受ける対象の看護を中心に学ぶ。また、手術で身体の一部を喪失することにより、形態・機能的変化がありながらも生活していくことを支える援助について理解する。事例を通して周手術期にある対象に必要な看護について学ぶ。</p> <p>医療構造の変化に伴い、救急医療は傷病者の命を救い、社会復帰に導くことに加え、疾病予防も重要視されるようになってきている。それに伴い、救急看護の役割も変化している。プレホスピタルケアや一般市民への救急処置の教育など役割が拡大してきており、看護師として知っておくべき救急看護の知識と技術を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急激な健康危機状況から回復を促す看護</li> <li>2. 手術療法を受ける対象の看護</li> <li>3. 救急看護を必要とする対象への看護</li> </ol>
成人看護学 援助論Ⅱ 慢性疾患や障害 を持つ対象の生 活を支える看護	<p>障害をもちながら健康的に生きることを支援するための看護として、リハビリテーションを必要とする対象を理解し、その人が障害を抱えながらも、その人らしい生活を再構築していく過程を支援することを学ぶ。</p> <p>健康生活の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護として、セルフケアを必要とする対象を理解し、患者が主体的に自ら望ましい方向に折り合いをつけながら生活の改善・再発予防のためのセルフケア確立に向けて歩んでいく過程が円滑に進むように支え促すことを学ぶ。事例を通して慢性期にある対象に必要な看護について学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害がある人の生活</li> <li>2. リハビリテーションを支援する看護援助</li> <li>3. 生活を再構築するための看護の実際</li> <li>4. 慢性疾患を抱えながら生活する対象のセルフマネジメントを推進する看護援助と多職種連携</li> <li>5. 生活の再構築を支える援助の実際</li> </ol>
成人看護学 援助論Ⅲ 全人的苦痛を緩 和しその人らし い生を支える看 護	<p>終末期に関する概念を理解し、倫理的課題・死について考察する。</p> <p>人生の最期のときを支える看護として、終末期にある対象と家族の心理過程を理解し、緩和ケアの視点から対象に必要な看護を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人生最期の時を支える看護</li> <li>2. 緩和ケアにおける倫理的な課題</li> <li>3. QOLの向上やセルフケア再獲得のための全人的ケアの実際</li> <li>4. 終末期の生活を支える看護の実際</li> </ol>
成人看護学実習	成人期にある対象を理解し、健康の保持・増進、社会復帰に向けて対象及びその家族に応じた適切な看護ができる基礎的能力を養う。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期看護</li> <li>2. 慢性期看護</li> <li>3. 終末期看護</li> </ol> <p>*上記のいずれか1つ</p>

## 老年看護学

老年看護学では、老年期にある対象の生き方や価値観を尊重し、個別の存在として理解し、老年看護の目的と役割を理解することを目指す。

超高齢社会に突入している今、老年期にある対象を取り巻く社会は変化し、それに伴い施策も変化している。そのため、社会の変化をとらえ、保健・医療・福祉の連携の中での看護の役割が理解できる内容としている。また、加齢変化は身体的生理機能の低下を引き起こし、高齢者の生活や社会・心理側面に大きな影響を及ぼし、健康上の課題も複雑で日常生活への影響も大きい。そのため、看護においては高齢者に起こりやすい身体的・心理的・社会的変化を理解し、個別の生活援助に必要な知識・技術を身につけたい。老年期にある対象の健康上の課題を理解することにより、地域社会の中で、健康に安心して暮らし続けられるよう、対象の状況に応じた QOL 向上に向けた生活支援ができるための学習を進めていく。

老年看護学実習では、対象を理解し、発達段階に応じた健康の保持・増進と健康上の諸問題をもつ対象及びその家族に対する看護が実践できる基礎的能力を養う。

目的：老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや環境下にある高齢者に対して、その人が望む人生の統合に向けて支援するために必要な基礎的能力を養う。

目標：

1. ライフステージのなかの老年期の身体的・心理的・社会的変化を理解し、老年看護の対象を理解できる。
2. 高齢者の健康課題を理解し、継続的・予防的な看護活動の必要性と看護の方法を理解できる。
3. 老年期の健康と QOL について理解を深め、高齢社会における老年看護の役割について理解できる。
4. 生活する高齢者を支える医療、社会保障と福祉制度を理解し、その他の専門職との連携について知る。
5. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメント能力を養い、自立の段階に応じた援助が出来る。
6. 生活機能の障害が家族の機能にどのような影響を及ぼしているのかを理解できる。
7. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。
8. 高齢者の生活史について理解を深め、自己の高齢者観を養う。

### 授業実施計画

授業科目	履修単位	第三看護学科		
		1年次	2年次	3年次
老年看護学概論	1単位 30時間	30時間		
老年看護学援助論Ⅰ	1単位 30時間		30時間	
老年看護学援助論Ⅱ	1単位 30時間		30時間	
老年看護学実習	2単位 90時間			90時間

科目毎のねらい・主な教育内容

科目	ねらい	学習内容
老年看護学概論	<p>看護を提供するためには、高齢者を身体的、心理的、社会的側面から理解する必要がある。高齢者の特徴を学び、ライフステージの最終段階にある老年期の意味を考えることで、高齢者観を養う基盤とする。また、高齢者とその家族が、地域社会の中で、健康に安心して暮らし続けられるよう看護を提供するための知識として、高齢者の生活に関連する保健・医療・福祉に関する制度について学習する。さらに、他職種との連携、チームの一員としての看護師の役割、制度の活用について学習することで看護実践の基礎的能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の理解</li> <li>・加齢に伴う各種機能の変化と健康上の問題</li> <li>・高齢者の生活と権利擁護</li> <li>・エンドオブライフケア</li> <li>・保健医療福祉制度</li> <li>・在宅・施設サービス</li> <li>・家族への支援</li> </ul>
老年看護学援助論 I	<p>高齢者には長年生きてきた背景があり、それぞれの価値観がある。人生の最終段階にある高齢者の日常生活に焦点をあて、加齢に伴う健康問題を持ちながらもその人らしく生きることを支える援助の方法を学ぶ。さらに、身体可動性の障害や認知症による介助が必要な高齢者に対する看護の方法を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活動作能力のアセスメントと援助の方法</li> <li>・生活機能維持のための転倒・骨折予防</li> <li>・日常生活のアセスメントと看護</li> <li>・認知症高齢者の看護</li> <li>・生活が不活発な状態にある高齢者の看護</li> </ul>
老年看護学援助論 II	<p>本科目では、高齢者に特有の健康問題に焦点をあてる。老年看護では、健康障害のある高齢者に対し、健康回復と二次的障害の予防とともに生活機能の維持を目指す看護介入が重要になってくる。そのため、高齢者の特徴を踏まえた徴候、治療による高齢者への影響などについて理解する必要がある。高齢者が地域社会の中で健康にその人らしく生活しつづけられるよう、個別的な看護の展開を学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要徴候に焦点をあてたアセスメントと援助</li> <li>・薬物療法を受ける高齢者の看護</li> <li>・外科的治療を受ける高齢者の看護</li> <li>・主な疾患の看護</li> <li>・老年看護の展開</li> </ul>
老年看護学実習	<p>高齢者の特徴を理解し、健康上の諸問題をもつ高齢者及びその家族に対して、健康の保持とQOLを向上させるための看護ができる基礎的能力を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の理解</li> <li>・高齢者の加齢に伴う変化や自立の段階に応じたアセスメント</li> <li>・高齢者のもてる力や潜在している力を活かした援助の実施</li> <li>・高齢者の退院後の生活を見据えた援助の実施</li> <li>・対象者に応じた社会資源の活用や多職種連携の必要性と継続看護の理解</li> </ul>

## 小児看護学

子どもとその家族を取り巻く環境は急激に変化している。少子高齢化・核家族化など現代の家族や社会の状況を知り、子育て不安やいじめ・自殺、生活習慣病など子どもを取り巻く問題を理解する必要がある。子どもの権利と健康を守り、健やかな成長・発達を支援するために小児看護を学ぶ。

子どもは家族に守られ、家族との相互作用のなかで、最初の人間関係を築き、生活習慣を確立し少しずつ社会性を身につけ、常に成長・発達する存在である。小児看護の対象である子どもが、権利を有する一人の人として尊重され、子どもにとっての最善の利益を考えた看護を目指す。あらゆる発達段階・健康状態・療養の場における子どもが、社会の中で健やかに発達し生きていくことができるよう子どもが本来持つ力を引き出す看護のあり方を考える。家族は子どもと一緒に支える存在であるとともに看護ケアの対象である。家族を子どもの重要な存在と位置づけ、子どもと家族が主体となるケアを学ぶ。

子どもの健康状態や看護の必要性を判断するために、アセスメントに必要な知識と技術を理解する。小児事例の発達段階・健康状態に応じた看護を展開することで、看護の対象がもつ問題を解決するためのプロセスを学ぶ。演習を通して、健康障害を持つ子どもが、安全な療養生活が送れ、親子の療養行動を促進する援助、成長・発達を支援しながら、子どもが本来持つ力を引き出し発揮できるような援助を考える。

小児看護学実習では、子どもと接する経験を通して子どもの理解を深め、発達段階に応じた働きかけを学ぶために、保育園実習・病棟実習を設ける。また病棟実習では、健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、検査や処置を受ける子どもの安全とその苦痛を最小限にした看護、子どもが本来持つ力を引き出す看護、家族への関わりを考える機会とする。また、多職種との連携や継続看護、退院後の生活支援の実際を学ぶ。

目的： あらゆる健康レベルにある子どもとその家族を対象にし、子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達を支え、地域でその子らしく生活できるように支援する看護の基礎的能力を養う。

目標：

1. 小児各期の成長・発達を理解し、小児看護の対象である地域で生活する子どもとその家族を理解する。
2. 子どもの権利を尊重し、子どもにとっての最善の利益を目指した看護を理解する。
3. 地域で暮らす子どもの日常生活を知り、健やかな成長・発達を支援するための看護を理解する。
4. 健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、健康段階に応じた看護を理解する。
5. 子どものアセスメントに必要な看護技術を理解する。
6. 地域で生活する子どもとその家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第三看護学科		
		1年次	2年次	3年次
小児看護学概論	1単位(30時間)	30時間		
小児看護学援助論Ⅰ	1単位(30時間)		30時間	
小児看護学援助論Ⅱ	1単位(15時間)		15時間	
小児看護学実習	2単位(90時間)			90時間

科目毎のねらい・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
小児看護学概論	<p>小児看護学の対象となる子どもとその家族の理解を深める。</p> <p>子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達を支援するために成長・発達の特徴、家族の特徴、地域で暮らす子供の日常生活について理解する。また子どもの倫理と権利について考え、子どもにとっての最善の利益を目指す看護を理解する。</p> <p>法律や統計を通して、子どもを取り巻く社会環境の変化と課題を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護とは</li> <li>2. 小児看護における権利・倫理</li> <li>3. 子どもの成長・発達の原則とアセスメント</li> <li>4. 小児各期の成長・発達に応じた生活への支援</li> <li>5. 小児にとっての家族</li> <li>6. 子どもと家族を取り巻く社会環境の変化と課題</li> </ol>
小児看護学援助論Ⅰ	<p>あらゆる発達段階・健康状態・療養の場における子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、子どもが本来持つ力を引き出す看護のあり方を学ぶ。</p> <p>また、子どもの健康状態や看護の必要性を判断するために、アセスメントに必要な知識と技術を学ぶ。</p> <p>健康問題や障害をもつ子どもとその家族を理解し、子どもの成長・発達段階や病気、症状、経過・状況に応じた看護の特徴を学ぶ。</p> <p>検査や処置を受ける子どもの安全とその苦痛を最小限にした看護、子どもが本来持つ力を引き出す看護、家族への関わりを考える。また、多職種連携や継続看護について考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響</li> <li>2. 病気に伴う子どものストレスと対処</li> <li>3. 子どもにとって最善の利益を目指した看護</li> <li>4. 小児の療養の場と安全・安楽な療養環境の調整</li> <li>5. 健康問題や障がいを持つ子どもと発達段階に応じた看護</li> <li>6. 小児のアセスメント</li> <li>7. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護</li> <li>8. 小児の看護技術</li> <li>9. 健康段階に応じた子どもと家族への看護</li> </ol>

<p>小児看護学援助論Ⅱ</p>	<p>事例を通して、対象理解や看護の方向性を考えるための情報整理、全体像・関連図の記載、分析を行い、発達段階・健康状態に応じた看護を考える。</p> <p>また、子どもとその家族が安心して地域で暮らし続けられるように、継続看護の必要性を理解し、社会資源の活用を考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例を通しての看護の展開</li> <li>2. 事例の状態に適した看護</li> <li>3. 退院後の子どもの暮らしを支える看護</li> </ol>
<p>小児看護学実習</p>	<p>実習では子どもとの関わりを通して子どもの成長・発達の特徴を理解し、発達段階に応じた働きかけを学ぶ。</p> <p>保育所実習では、健康な乳幼児の理解を深め、子どもに親しみを持って関わる方法を学ぶ。また病棟実習では健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、検査や処置を受ける子どもの安全とその苦痛を最小限にした看護、子どもが本来持つ力を引き出す看護、家族への関わりを考える機会とする。また、多職種との連携や継続看護、退院後の生活支援の実際を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成長・発達、基本的生活習慣の理解</li> <li>2. 子どもとのコミュニケーション</li> <li>3. 健全な成長発達を促進するための養育のあり方</li> <li>4. 健康問題を持つ子どもとその家族への成長発達段階、健康問題に応じたアセスメントと看護の実践</li> <li>5. 健康問題をもつ子どもの継続看護と退院後の生活支援</li> </ol>

## 母性看護学

女性の生涯や役割の多様化、医学の進歩・発展、晩産化と少子高齢化、母子をめぐる生活環境の変化など母性看護の役割は拡大している。生涯を通じての性と生殖に関する健康を守るという観点から母性看護の対象や、次世代が健康に生まれ育つことができるよう変化していく母性への支援を理解する。現代の女性を取り巻く環境の変化と、女性のライフステージ各期におけるその時期の女性の特徴や健康問題について、リプロダクティブヘルスケアとの関係から理解する。

妊娠、分娩、産褥、新生児の経過とその看護を学び、周産期にある対象とその家族への看護について理解する。対象と家族、その家族が生活する地域社会をも含めた看護を理解する。また、異常な妊娠、分娩、産褥、新生児の経過とその看護を学ぶ。

周産期にある対象とその家族に対するアセスメントと必要な看護を看護実践の演習を取り入れて理解する。正常な経過の基礎知識と看護を確認しながら学習をすすめ、一連の看護展開を、学内演習を通して学ぶ。

母性看護学実習では、周産期における対象とその家族を理解し、次世代の健全な育成にむけてのセルフケアを高める援助を理解する。また、周産期における親子関係と継続看護の必要性を理解する。

目的：女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と次世代の健全育成を目指し、産み育てるための母性への支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

- 目標：1. リプロダクティブヘルスにかかわる概念を理解する。  
 2. 親になることの意味を考え、母性のとらえかたについて理解する  
 3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。  
 4. リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と看護を理解する。  
 5. 女性のライフステージ各期の健康にかかわる諸問題をとらえ、看護や保健指導について理解する。  
 6. 性と生殖に関する倫理観を養う  
 7. 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象とその家族を理解する。  
 8. 周産期にある対象に次世代の健全な育成にむけてのセルフケアを高める援助を理解する。

### 授業実施計画

授業科目	履修単位	第三看護学科		
		1年次	2年次	3年次
母性看護学概論	1単位 (30時間)	30時間		
母性看護学援助論Ⅰ	1単位 (30時間)		30時間	
母性看護学援助論Ⅱ	1単位 (30時間)		30時間	
母性看護学実習	2単位 (64時間)			64時間

科目毎のねらい・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
母性看護学概論	<p>母性看護の基盤となる概念について考え、母性看護の対象とそのあり方及び対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。</p> <p>リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と看護を理解すると共に性と生殖に関する倫理観を養う。</p> <p>女性のライフステージ各期の健康にかかわる諸問題をとらえ、看護や保健指導について理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リプロダクティブヘルスにかかわる概念</li> <li>2. 母性とは               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 親になることと母性</li> <li>2) 母性の発達・成熟・継承</li> <li>3) 母子関係と家族発達</li> </ol> </li> <li>3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状</li> <li>4. リプロダクティブヘルスケア</li> <li>5. ライフサイクルにおける女性の健康と看護</li> <li>6. 女性のライフサイクル各期における看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 思春期女性の健康問題と看護</li> <li>2) 成熟期女性の健康問題と看護</li> <li>3) 更年期・老年期女性の健康問題と看護</li> </ol> </li> <li>7. 母性看護と倫理</li> </ol>
母性看護学援助論Ⅰ	<p>妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象とその家族の看護を理解する。周産期にある対象に次世代の健全な育成に向けてセルフケアを高める援助を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠の経過と看護</li> <li>2. 分娩の経過と看護</li> <li>3. 新生児の経過と看護</li> <li>4. 産褥の経過と看護</li> </ol>
母性看護学援助論Ⅱ	<p>周産期特有の疾患の病態、症状、診断、治療、および異常時の妊産褥婦・新生児とその看護を理解する。</p> <p>母性看護における看護過程を展開する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠、分娩、産褥の異常</li> <li>2. 異常妊娠・分娩・産褥・新生児の看護</li> <li>3. 母性看護における看護過程の特殊性</li> <li>4. 母性看護技術</li> </ol>
母性看護学実習	<p>妊婦・産婦・および新生児とその家族を理解し、女性のライフサイクルに応じた看護を学ぶ。</p> <p>妊娠・分娩・産褥期における親子関係について理解し、母性看護における継続看護の必要性を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的経過の理解</li> <li>2. 妊婦・産婦・褥婦とその家族に対する保健指導</li> <li>3. 妊婦・産婦・褥婦とその家族のアセスメントと必要な看護の実践</li> <li>4. 親子関係の理解</li> </ol>

## 精神看護学

現代社会は目覚ましい科学技術の発展を遂げ、同時に複雑化している。その中で人々はストレスにさらされ、心のバランスを崩しやすくなり、こころを病むことはあらゆる人々に起こりうる。その中で、人間は様々な悩みや問題と向き合うことでより成熟していく。そこで、精神看護学では、あらゆるライフサイクルにある人々を対象に、こころの健康を維持するための精神看護の目的や役割について理解を深める。そして、精神機能を障害することによる生活への影響を理解し、対象を生活者としてとらえ、経過に応じた看護が提供できることを目指す。さらに、精神障がいをもつ対象がその人らしく生きるために、地域における対象の暮らしを考える。また、精神看護は自己を道具とし、対象との相互作用を行うことにより、看護を発展させていく。そのため、准看教育や基礎看護学で学んだ人間関係技術を発展させ、治療的人間関係について学ぶ。

精神看護学実習では、精神障がいをもつ対象を、生活者としてとらえ、共に過ごす時間と場を大切にしたい実習とする。そして、関係障害をもつ対象との出会いから、治療的な人間関係への発展に至る過程を学んでいくことで、対象が表現している、あるいはひそめているニーズを看護によって満たすことの重要性を体験していく。また、この体験の中から自己・他者理解が深まり、精神看護の役割について理解する。

目的： 精神の健康を保持増進するための支援や、精神に何らかの健康問題を抱えている人々がその人らしく生きるための支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

目標：

1. 発達理論、精神力動論、医学モデルなどの視点から、精神の健康と精神障がいをもつ対象を多角的に理解する。
2. 精神の健康から不健康と生活行動との関連、さらに環境と生活行動との関連を理解し、その援助を考える。
3. 精神障がいをもつ対象とその家族の特徴を理解し、生活の質を高める看護について理解する。
4. 地域精神保健活動のシステムと活動の実際を理解する。
5. 精神保健福祉活動における看護の責任と役割を理解する。
6. 災害における精神保健福祉活動を理解する。
7. 精神の健康回復への援助を行うための基礎的知識・技術を習得する。
8. 精神障がいをもつ対象に応じた看護を理解する。
9. 精神の健康回復への援助及びその過程を通して自己洞察をおこない、対象との関係性の構築を考えることができる。
10. 精神障がいをもつ対象の地域生活への支援を理解する。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第三看護学科		
		1年次	2年次	3年次
精神看護学概論	1単位（15時間）	15時間		
精神看護学援助論Ⅰ	1単位（30時間）		30時間	
精神看護学援助論Ⅱ	1単位（30時間）		30時間	
精神看護学実習	2単位（90時間）			90時間

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

科目	ねらい	教育内容
精神看護学概論	<p>全てのライフサイクルを対象としたメンタルヘルスの視点から、心の発達過程を理解し、こころの健康と障害をもつ対象を多角的に理解する。</p> <p>また、精神保健福祉活動や地域精神保健福祉活動を知り、看護の役割を考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神発達理論</li> <li>2. ストレスと対処行動</li> <li>3. 生活の場と精神健康問題</li> <li>4. 精神保健福祉の歴史</li> <li>5. 精神保健福祉をめぐる法制度</li> <li>6. 災害における精神保健福祉援助</li> </ol>
精神看護学援助論 I	<p>精神看護に必要な基本的看護技術や精神医療について学び、精神障がいをもつ対象の強みに着眼し、その人らしく生きることに対しての看護を考える。</p>	<p>* 精神障がいをもつ対象の看護から教育内容を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の目的と役割</li> <li>2. 精神看護に必要な基本的看護技術</li> <li>3. 精神科医療</li> <li>4. 行動制限とリスクマネジメント</li> </ol>
精神看護学援助論 II	<p>精神障がいをもつ対象との関係性から、自己洞察を深め、対象理解をすることで精神疾患をもつ対象の個別性に応じた看護を見出す。そこから、自己の人間関係の特徴を見出し、看護師としての成長につなげる。また、精神保健福祉施策の改革ビジョンから、精神医療も入院治療中心から地域生活中心へとうたわれ、さらに地域包括ケアシステムの考え方が現実となっている。そのため、精神障がいを持ちながら生活する対象に対する支援を考え、その中での多職種連携を意識して看護の役割機能を考える。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護における看護場面の再構成</li> <li>2. 統合失調症慢性期患者・家族の看護</li> <li>3. 地域に住む精神障がいをもつ人への支援</li> </ol>
精神看護学実習	<p>自分の感情や行動の傾向に気づき、自己洞察をする。</p> <p>精神の障がいがある人及びその家族の理解を深め、精神の健康回復への看護を学ぶ。</p> <p>精神の障がいがある人の地域生活への支援を学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己洞察と対人関係における自己の課題の理解と取り組み</li> <li>2. 精神科病棟に入院している患者とその家族のアセスメントと必要な看護の実践</li> <li>3. 精神の障がいがある人の継続医療の必要性と看護の役割の理解</li> <li>4. 地域で生活している精神障がいがある人への支援の理解</li> </ol>

## 看護の統合と実践

看護を取り巻く環境は時代とともに変化しており、国民の意識も安全・安心の重視とともに、医療の質を重視する方向に転換してきている。また、医療から地域へと対象の捉え方がシフトしている社会のニーズに対応し、看護においても活躍の場を広げ、質の高い看護の提供が求められている。その中で対象の生活の質を向上させるためには、保健・福祉・医療チームと協働することは欠かせない。このような環境の変化に対応し、看護実践能力の育成を目指す。また、各看護学で学んだ内容を臨床で実際に活用できるように、より臨床に近い疑似環境で学習を進めることで、チームの中での役割を考え周囲との関係調整を図るための基礎的能力を身につけることをめざす。災害看護・国際看護では、災害時における看護の役割・機能が理解できる能力を養うとともに、看護の国際協力の在り方や看護の動向を理解する。看護マネジメントでは、看護を取り巻く諸制度や看護管理について理解する。また、医療事故の問題について学び、リスクマネジメントの基礎を理解するとともに、医療事故防止の考え方を理解し、危険予知訓練を通してリスクマネジメントのプロセスについて学ぶ。看護観では、自己の経験を振り返り、対象の理解や看護の意味を考える。そして、他者の看護観を知ることで自己の看護観を深め、看護専門職としての目標を明確にすることを目指す。そして、統合実習では、各分野の知識・技術・態度を統合させ包括的視点で看護実践するための基礎的能力を養う。

目的：看護の知識・技術を統合し、臨床に適応する基礎的能力を養う。

目標：

1. 保健・医療・福祉チームの一員として協働するために、看護職としての役割とマネジメント能力の必要性を理解する。
2. 医療安全の基礎的知識を学び、看護・医療事故やその影響を最小限にする知識と技術を習得し、看護・医療安全を遵守する意志を高める。
3. 災害看護の役割、災害直後から支援できる基礎的知識について理解する。
4. 世界の健康問題や看護の現状と課題をふまえ、看護の国際協力の活動内容の実際を学ぶ。また、諸外国で展開される看護実践や国際的な支援活動について理解し、国際的視野を広げる。
5. 既習の知識・技術・態度を統合し、様々な場面においてその技術を活用できる能力を養う。
6. 自己の看護の修得状況を認識し、熟練・向上するために継続的に学習する能力を養う。
7. 看護職以外の専門職が担う役割や専門性を理解し、チーム医療を発揮するために看護職と多職種との協働・連携について考える。
8. 自己の看護観をまとめ、看護専門職としての目標を明確にできる。

授業実施計画

授業科目	履修単位	第 三 看 護 学 科		
		1 年次	2 年次	3 年次
看護の統合と実践 I	1 単位 (15 時間)		15 時間	
看護の統合と実践 II	1 単位 (15 時間)			15 時間
看護の統合と実践 III	1 単位 (15 時間)		15 時間	
看護の統合と実践 IV	1 単位 (15 時間)			15 時間
看護の統合と実践 V	1 単位 (15 時間)			15 時間
統合実習	2 単位 (90 時間)			90 時間

科目毎の設定理由・科目目標・主な教育内容

授業科目	ねらい	教育内容
看護の統合と実践 I	医療安全を学ぶことの意義や医療事故に関する基礎的知識を理解することを目的とし、事例を通して看護業務を行う上での種々の危険因子を理解する。また、事故防止のための具体的な行動について理解し、判断力を高め、安全管理に取り組む組織の一員として自覚を高める。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全を学ぶことの大切さ</li> <li>2. 事故防止の考え方を学ぶ</li> <li>3. 看護・医療事故予防の実践</li> <li>4. 医療安全管理</li> </ol>
看護の統合と実践 II	病院において医療全体が効果的、経済的に機能するための管理方法の基本を学び、看護組織における看護サービスの管理方法を理解する。また、多職種の役割と責務について理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とマネジメント</li> <li>2. 組織の中の役割</li> <li>3. マネジメントに必要な知識と技術</li> <li>4. 多職種との協働の意義</li> <li>5. チーム医療を発揮するための看護職と多職種との協働・連携</li> </ol>
看護の統合と実践 III	<p>災害の定義や災害発生時の社会の適応や仕組み・個人の備えについて学び、災害が被災者の生活や健康に及ぼす影響を理解する。</p> <p>災害直後から復興に向けての看護ケアの基本を学び、その対象への看護ケアの提供方法が理解できる。</p> <p>保健医療分野における国際協力の必要性を理解する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害の定義と分類 ・災害の定義 ・災害の分類 ・災害サイクル</li> <li>2. 災害時の社会制度 ・災害に関連する法規</li> <li>3. 災害への備え・防災計画 ・災害に関する教育、訓練</li> <li>4. 災害看護における倫理的課題</li> </ol>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>5. 災害直後の被災者へのケア</li> <li>6. 災害復興期の被災者へのケア</li> <li>7. 静穏期における看護の役割</li> <li>8. 各期における要援護者への看護</li> <li>9. 保健医療分野における国際協力</li> </ul>
看護の統合と実践Ⅳ	<p>複数の課題に対して起こり得ることを予測した援助方法を判断できる。また、対象に必要な援助の優先順位を状況に応じて決定および修正ができ、行動計画を立案することを学ぶ。そのことから、複数の対象の状況理解や複数の対象に応じた援助が実践でき、統合的に知識と技術の活用や対象の状況に応じた対応を理解できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 複数の患者の状況理解</li> <li>2. 複数受け持ち患者のタイムスケジュールの考え方</li> <li>3. 同時に複数の課題が重なる場合、割り込み状況発生時の対処方法</li> <li>4. 臨床判断モデルに基づいた患者の状況把握とその状況に応じた対応</li> </ul>
看護の統合と実践Ⅴ	<p>自己の経験を振り返り、対象の理解や看護の意味を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 自己の考える看護</li> <li>2. 自己の大切にしたい看護の意味</li> <li>3. 看護観を他者に伝え、自己の看護の振り返り</li> <li>4. 看護専門職としての目標</li> </ul>
統合実習	<p>チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としての役割を理解し、安全な医療や看護が実践できる能力を養う。複数の患者を受け持ち、多重課題の中で看護を実践する方法を理解し、よりよい看護を提供するための看護管理について理解する。</p> <p>看護活動が円滑に行われるためのチームリーダー・チームメンバーの役割を理解し、組織としての医療安全の取り組みを理解する。また、多様な専門職との連携の実際を知り、その中で看護の役割を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 病院組織における看護管理</li> <li>2. 病棟管理の実際</li> <li>3. チームリーダー業務</li> <li>4. メンバー業務</li> <li>5. 看護チームの一員としての看護ケアの実施</li> <li>6. 複数患者を受け持ち、時間管理や優先順位を考えた看護</li> </ul>

## 基礎看護学

目的：看護に必要な基礎的知識、技術および態度を学ぶことで看護を実践できるための基礎的能力を養う。

- 目標：1. 看護の対象である人間について理解し、看護とは何かを考え看護の本質を理解する。また、専門職としての倫理及び看護の役割を理解する。
2. 生活者である対象を理解し、健康問題が現れたときや、その人のからだにあった生活をするための援助を考えることができる。
3. 看護実践における対象との相互関係の成立、発展させるための理論と技術を学ぶ。
4. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な知識・技術を習得し、臨床判断の基礎的能力を養う。
5. 看護における研究の意義と方法を理解し、研究的態度を養う。

### 構成

#### 基礎看護学

10 単位 (285 時間)

看護学概論	1 単位 30 時間	専任教員
フィジカルアセスメント	1 単位 30 時間	専任教員
ヘンダーソン看護論演習	1 単位 15 時間	専任教員
人間関係技術	1 単位 15 時間	専任教員
学習支援	1 単位 15 時間	専任教員
看護過程	1 単位 30 時間	専任教員
対象の状態に応じた看護実践	1 単位 30 時間	専任教員
看護研究	1 単位 30 時間	専任教員
基礎看護学実習	2 単位 (90 時間)	

科目名  看護学概論	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・健康の意義及び看護の本質を理解し、看護とは何かを考え、対象である人間について理解する。 ・看護の専門職としての役割を学ぶ。		
DP との関連 1. 生命尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。 3. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続けることができる。		
授業内容	方法	備考
1. 看護とは 2. 看護の主要概念を学ぶ：人間 健康 環境（社会）看護 3. 看護理論；ナイチンゲール、ヘンダーソン、ペプロウ、 トラベルビー、オレム、ロイ 4. 5. 看護の対象の理解 ① 「こころ」と「からだ」を知ることの意味を理解する ②生涯発達しつづける存在としての人間を理解する 6. 看護と健康 国民の健康状態と生活 7. 看護の役割と機能 看護実践とその質保証に必要な要件 8. 看護提供のしくみ ①サービスとしての看護 ②看護サービスの提供の場 ③医療安全と質保証 9. 継続看護 10. 11. 看護における倫理 ①職業倫理としての看護倫理 ②患者の権利 ③患者の意思決定支援と守秘義務 ④医療専門職の倫理規定 ⑤看護実践における倫理問題 12. 看護をめぐる制度と政策 13. 看護職の教育とキャリア開発 14. 看護における組織と管理 15. 試験	講義・演習	
使用する図書 看護学概論：医学書院 参考図書 看護覚え書：現代社 看護の基本となるもの：日本看護協会出版、ほか 医療安全ワークブック：医学書院		評価方法 筆記試験 課題
受講上の注意		



<p>受講上の注意</p> <p>事前学習</p> <p>解剖学・生理学・病理学・形態機能と疾病理解の看護学視点の講義内容・資料を再学習すること</p>	
--	--

科目名 ヘンダーソン看護論演習	時間数 1 単位 15 時間 時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・ヘンダーソンの理論を学ぶことで、基本的な援助技術の展開につなげる。 ・対象の全体像を捉えながら、その人の真のニーズを探る。 ・看護の専門職として、看護の独自性を考え対象の生活行動を援助するということに焦点をあてる必要性を学ぶ。		
DP との関連 1. 生命尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。 3. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続けることができる。		
授業内容 1. ～2. ヘンダーソン看護論とは ①看護の主要概念：人間 健康 環境（社会）看護 ②看護師の独自の機能に関する定義 ③基本的看護の構成要素（14項目） ④基本的欲求に影響を及ぼす常在条件 ⑤基本的欲求を変容させる病理的状态 （特定の疾病とは対照的） 3. ～6. ヘンダーソン看護論と対象の生活行動（事例作成） ①ニーズの充足した状態 ②身体面・精神面・社会面の視点を持ち、対象のニーズを探る 7. 8. ニーズが充足された対象とは	方法 講義・演習  演習  成果発表	備考 *事前学習 ・「ヘンダーソンの看護の基本となるもの」読みまとめる ・ヘンダーソンの主要概念の再学習  *課題作成 ヘンダーソンの基本的欲求14項目において、体力・意思力・知識を念頭におき、その人の充足状態を考え事例を作成する)
使用する図書 基礎看護技術Ⅰ：医学書院 看護の基本となるもの 再新装版：日本看護協会出版会		評価方法 課題 100%
参考図書 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践：ヌーベルヒロカワ		
受講上の注意 ・事前学習は必ずして臨むこと。 ・事前学習のノートは事前に提出有		

科目名  人間関係技術	時間数 1 単位 15 時間  時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・看護実践における対象との相互関係の成立、発展させるための理論と技術を学ぶ。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容  1. 2. 人間関係を築くためのコミュニケーション技術 1) コミュニケーションの基本的知識 (1) コミュニケーションの意義と目的 (2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 (3) 関係構築のコミュニケーションの基本 3～5. 患者-看護師関係におけるコミュニケーション技術 1) 患者-看護師関係の確立 (1) 人間関係を基盤とした看護過程 2) 患者を理解するための基本的コミュニケーション 3) コミュニケーション技術の訓練と記録 (1) プロセスレコード 6. 7. 医療チームにおける専門家としてのコミュニケーション技術 1) 効果的なコミュニケーションの実際 (1) 傾聴 (2) 情報収集の技術 (3) 説明の技術 (4) アサーティブネス (5) カンファレンスの技術  8. 試験	方法  講義  講義・演習  講義・演習	備考  *プロセスレコード記載時は、ロールプレイを実施
使用する図書 基礎看護技術 I 医学書院  参考図書 看護に活かすプロセスレコード 阪本恵子 看護カンファレンス 川島みどり他 Be アサーティブ現場に活かすトレーニングの実際 勝原裕美子	評価方法 筆記試験 課題	
受講上の注意		



科目名  看護過程	時間数 1 単位 30 時間  時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員
科目のねらい・授業目標 ・適切な看護を実践するために必要な看護過程のプロセスを理解し、看護過程の基本的な展開技術を養う。 ・看護記録の意義や種類、看護記録の取り扱いについて理解する。		
DP との関連 2. 人々の健康上の課題に応じた看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 看護過程とは 2. 看護過程の基盤となる考え方 3. 看護理論と看護過程の関係 4. 看護過程の展開 情報収集 5. ～13. 1) アセスメント 2) 看護診断 (看護問題の明確化) 3) 計画立案 4) 実施 5) 評価 14. 1) 看護記録の意義と目的、構成 2) 看護記録の記載・管理に関する留意点	講義・演習	
15. 試験		
使用する図書 基礎看護技術 I 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニーベルヒロカワ ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト ニーベルヒロカワ 疾患別看護過程+病態関連図 医学書院		評価方法 筆記試験 課題
参考図書 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA		
受講上の注意		



科目名  看護研究	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・看護研究の意義とプロセス、クリティークの知識を理解し、研究的態度を培う。		
DP との関連 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続けることができる。		
授業内容  1. 看護研究とは 2. 看護研究のリサーチクエスト 3. 4. 文献検索の目的と方法・文献レビュー 5. 研究における倫理的配慮 6. 研究デザイン ①量的研究 ②質的研究 7. データの収集・分析 8. 9. 研究論文のクリティーク 10～12. 研究計画書の作成 13. 14. 看護学会参加	方法 講義・演習	備考 *情報処理室を使用し、文献検索、研究計画書の作成をする  *授業を通し、自らの研究したいテーマを1つ決め、研究計画書を作成する
15. 筆記試験		
使用する図書 別巻 看護研究：医学書院	評価方法 筆記試験 課 題	
参考図書 看護研究 step by step：学研 看護における研究：日本看護協会出版会		
受講上の留意点 ・学会参加時は、リクルートスタイル、名札着用（参加費必要な場合あり）		

科目名  基礎看護学実習	時間数 2 単位 90 時間  時期 2 年次後期	実習担当者 専任教員＊
目的 対象を生活者としてとらえ、臨床での看護の場面を通し対象の状況・状態に応じた看護実践に必要な基本的な知識・技術・態度を習得する。  目標 1. 対象を尊重する態度を養い、生活者としての対象を理解するための情報収集ができる。 2. 日常生活援助を中心に、対象の状況・状態に応じ臨床判断をしながら、看護実践ができる。 3. 対象とのコミュニケーションから、自己認知・他者認知を理解しながら患者との関係性を振り返り、自己の強みと課題を明確にできる。 4. 自己の看護実践を振り返り、次の課題を明確化できる。  【病棟実習】 1. 実習に向けた事前準備 2. 受け持ち患者の療養生活および実習環境 3. 生活者として受け持ち患者を理解するために必要な情報収集と整理 4. 日常生活援助を中心に、受け持ち患者の状況・状態に応じて判断をしながらの看護実践 5. 受け持ち患者のニーズの未充足から考えた看護の方向性の明確化 6. 実施した援助の評価 7. 患者-看護師関係が看護に及ぼす影響についての理解 8. 基礎看護学実習全体を通しての学びと課題  ●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照		
学習上の注意 事前学習		

## 地域・在宅看護論

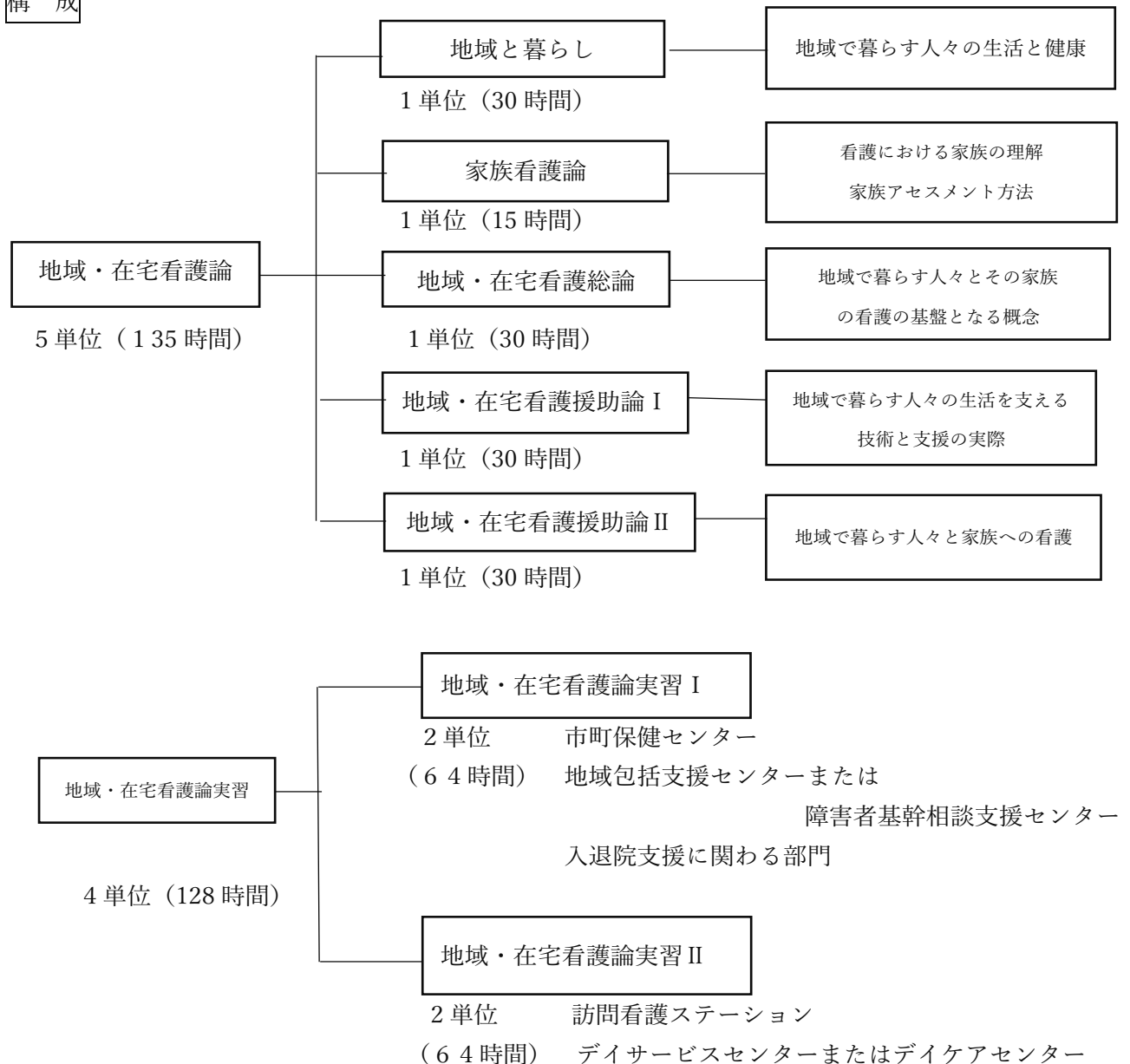
### 目的

地域で暮らす人々と場を理解し、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを継続的に支援するために必要な看護の基礎的能力を養う。

### 目標

1. 暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。
2. 家族看護を実践するために必要な知識・援助方法を学び、家族看護を理解する。
3. 地域で暮らす人々とその家族の看護の基盤となる概念を理解する。
4. 暮らしを支える看護に必要な法・制度・施策を理解し、活用方法を考える。
5. 看護が提供される多様な場を理解する。
6. 地域で暮らし続けることを支援するためのマネジメントを理解する。
7. 地域で暮らす人々とその家族の健康と暮らしを支える看護について理解する。

### 構成







<p>使用図書</p> <p>系統看護学講座 家族看護学 医学書院</p>	<p>評価方法</p> <p>筆記試験80%</p>
<p>参考図書</p> <p>家族看護学 倫理と実践・第5版 日本看護協会出版会</p> <p>系統看護学講座 地域・在宅看護論の基盤 医学書院</p>	<p>課題 20%</p>
<p>受講上の注意</p>	

科目名  地域・在宅看護総論	時間数 1単位 30時間 時期 1年次後期	講義担当者 専任教員* 保健師*訪問看護師* 臨床看護師* 多職種* 介護支援専門員*
科目のねらい・授業目標 ・地域・在宅看護が必要とされる背景と在宅看護の概念について理解する。 ・地域・在宅看護の対象、活動の場、看護活動の特徴について理解する。 ・地域で暮らし続けるために必要な法・制度、多職種連携・協働、社会資源について理解する。		
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 2. 地域・在宅看護の対象 1) 地域・在宅看護の対象者 ・地域による多様性 ・ライフステージによる多様性 ・健康レベルの多様性 2) 家族の理解 地域における暮らしを支える看護 3. 4. 地域・在宅看護実践の場と連携 1) 多様な場での看護の実際 2) 地域・在宅看護における多職種連携 5. 地域包括ケアシステムの意義と概念 1) 地域ケアシステムとは ・地域包括支援センターの役割 2) 地域包括ケアシステムの構成要 3) 地域包括ケアシステムと自助、互助、共助、公助	講義     講義 演習   講義 演習	専任教員   <事前学習> 養成所が所在する地域 にある種々の施設につ いて調べ学習
6. 地域での暮らしにおける災害対策	講義	臨床看護師 (専任教員の筆記試験 に含む)基盤:第4章G
7. 8. 地域で暮らし続けるための支援① 1) 退院調整、退院支援、継続看護 2) 多職種連携、協働	講義	臨床看護師・多職種 (専任教員の筆記試験 に含む)参照:基盤 第5

		章 B6・7、C 実践 第6章A・B1・2
9～11. 地域で暮らし続けるための支援② 1)介護保険制度について 2)ケアマネジメントと社会資源の活用 3)ケアマネジャーの活動と役割 4)介護予防ケアプランの作成について	講義	介護支援専門員 (授業時間と別に 筆記試験) 基盤:第6章 A・C8 実践:第6章 B3
12～14. 地域で暮らし続けるための支援③ 1)地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 ・医療保険制度 ・地域保健にかかわる法制度 ・高齢者、障害者・難病、公費負担医療、権利保障に関する法制度 ・権利保障に関する法制度 2)訪問看護の制度 ・訪問看護制度の歩み ・訪問看護の利用者と訪問回数 ・訪問看護ステーションに関する規程 ・訪問看護ステーションの利用までの手順、費用	講義	保健師(2) (専任教員の筆記試験に含む) 基盤:第6章 A2・B・D E・F・G・H  訪問看護師(4) (専任教員の筆記試験に含む) 基盤:第6章 C1～7
15. まとめ・試験		
使用図書 系統看護講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護講座 地域・在宅看護の実践 医学書院		評価方法 専任教員 筆記試験80% 課題 20% 介護支援専門員 筆記試験
参考図書 家族看護学 倫理と実践・第5版 日本看護協会出版会		
受講上の注意		

科目名  地域・在宅看護援助論Ⅰ	時間数 1単位 30時間 時期 2年次前期	講義担当者 専任教員* 臨床看護師* 訪問看護師* リハビリテーション専門職*	
科目のねらい・授業目標 ・地域で生活する人々と家族の健康の保持増進を支援する看護について理解する。 ・生活する場に訪問する看護師の姿勢について学び、信頼関係形成のあり方を理解する。 ・地域で暮らす人々と家族が、その人らしく生活するための日常生活援助技術を理解する。			
DPとの関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。			
	授業内容	方法	備考
1. 地域で暮らす人々の生活を支える援助① ・暮らしの場での看護に必要な接遇と面接技術 2～5. 地域で暮らす人々の生活を支える援助② ・食事、排泄、清潔、衣生活、服薬管理の生活援助	講義  講義 演習	専任教員 ・訪問場面を設定し、面接技術と生活援助のロールプレイ	
6.7. 地域で暮らし続けるための支援の実際① 1) 生活リハビリテーション 2) 福祉用具の選定基準と活用方法	講義	リハビリテーション専門職 (専任教員の筆記試験に含む) 実践:第2章 E2a.b	
8.9. 地域で暮らし続けるための支援の実際② 1) 地域での暮らしにおけるリスク 2) 地域・在宅看護における安全をまもる看護 ・療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 ・地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント	講義	臨床看護師 (専任教員の筆記試験に含む) 基盤:第4章F 実践:第2章D1・2・3	
10～12. 地域で暮らし続けるための支援の実際③ 1) 経管栄養法(経鼻・胃瘻)を受ける療養者の援助 2) 在宅中心静脈栄養法を受ける療養者の援助 3) 尿道留置カテーテルの管理とケア 4) ストーマの管理とケア	講義	訪問看護師 (専任教員の筆記試験に含む) 実践:第2章E3 e・f、E4、E7、	

<p>5) 在宅酸素療法を受ける療養者の援助  6) 在宅人工呼吸器療法を受ける療養者の援助  7) 創傷管理（皮膚トラブル・褥瘡予防とケア）に関する援助</p>		E8
<p>13～15. 地域で暮らし続けるための支援の実際④  ・終末期の看護</p>	講義	訪問看護師 参照 実践：第3章 H・第4章I、第6 章B2
<p>使用図書 系統看護講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院  系統看護講座 地域・在宅看護の実際 医学書院  写真でわかる 訪問看護アドバンス インターメディカ</p>	評価方法 専任教員 訪問看護師	
<p>参考図書</p>	<u>授業時間外試</u>	
<p>受講上の注意</p>	<u>験</u>	

科目名  地域・在宅看護援助論Ⅱ	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・暮らしの場で行われる治療と看護を理解する。 ・地域に暮らす人々と家族に対する看護援助の方法を理解し、地域で暮らし続けることを考える。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 地域・在宅看護における看護過程 ・看護過程の基本、特徴 地域・在宅看護における時期別の看護 ・外来受診、入院、退院、在宅療養、終末期までのさまざまな時期の特徴	講義	
2～5. 地域で暮らす人々と家族への看護① —慢性疾患をもつ療養者とその家族の看護：療養生活における課題への看護展開— ・医療機器の管理方法、日常生活指導、意思決定支援、多職種連携、協働	講義 演習	グループワーク
6～9. 地域で暮らす人々と家族への看護② —終末期にある人とその家族の看護：苦痛のない生活維持のための看護展開— ・今後おこりうることの把握と対処方法・医療処置、意思決定支援、多職種連携・協働	講義 演習	グループワーク
10～13. 地域で暮らす人々と家族への看護③ —難病で療養生活を送る人とその家族の看護：進行、変化に合わせた看護展開— ・ADL の低下とセルフケアへの支援 ・今後予測される症状に対する医療処置への意思決定支援、社会資源と多職種連携・協働	講義 演習	グループワーク
14. 地域で暮らす人々と家族への看護④	演習	発表会
15. まとめ・試験		
使用図書 系統看護講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院	評価方法	

<p>系統看護講座 地域・在宅看護の実践 医学書院 写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ</p>	<p>筆記試験60% 課題 40%</p>
<p>参考図書</p>	
<p>受講上の注意 グループでの取り組みを発表し、学びを共有する。</p>	

科目名 地域・在宅看護論実習 I	単位数 2 単位	時間 6 4 時間
第三看護学科：3 年次 6 月～1 2 月		
<p>目的</p> <p>地域で暮らす人々と多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために実践されている地域包括ケアシステムをとおして、看護の役割、多職種連携のあり方を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。</li> <li>2) 地域における人々の暮らしや健康を支援する社会の基盤を理解する。</li> <li>3) 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念理解を深める。</li> <li>4) 地域で生活する人々とその家族（介護者）の在宅看護の実際から、地域・在宅看護のあり方を考える。</li> </ol> <p><b>地域・在宅看護論実習 I-1</b></p> <p>【市町保健センター】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健センターの役割と機能を理解する。</li> <li>2. 関係機関、関係職種との多職種連携における看護師の役割を考える。</li> </ol> <p>【地域包括支援センター・障害者基幹相談支援センター】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設の役割と施設を利用する人々を理解する。</li> <li>2. 地域のケアニーズを把握し、対象者に応じた支援を理解する。</li> </ol> <p><b>地域・在宅看護論実習 I-2</b></p> <p>【入退院支援に関わる部門】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入退院支援に関わる部門の役割を理解する。</li> <li>2. 保健・医療・福祉領域の関係機関・関係職種の連携機能と社会資源を理解する。</li> <li>3. 対象が安心して地域で暮らすために、地域で生活している人々とその家族の特性をふまえた看護実践を理解する。</li> <li>4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護師の役割を理解する。</li> </ol> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

科目名 地域・在宅看護論実習Ⅱ	単位数 2単位	時間 64時間
第三看護学科：3年次 6月～12月		
<p>目的</p> <p>地域で暮らす人々と多様な場で療養する対象者や家族が、安心してその人らしい生活を継続していくために実践されている地域包括ケアシステムをとおして、看護の役割、多職種連携のあり方を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域における人々の暮らしを理解するとともに、暮らしが健康に与える影響を理解する。</li> <li>2) 地域における人々の暮らしや健康を支援する社会の基盤を理解する。</li> <li>3) 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念理解を深める。</li> <li>4) 地域で生活する人々とその家族（介護者）の在宅看護の実際から、地域・在宅看護のあり方を考える。</li> </ol> <p><b>地域・在宅看護論実習Ⅱ - 1</b></p> <p>【訪問看護ステーション】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活している人々と家族を生活者として捉え、生活のなかでの支援の実際を理解する。</li> <li>2. 地域で療養している人々の生活と健康上の問題、家族関係を理解する。</li> <li>3. 関係機関・関係職種との連携・協働について学び、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を理解する。</li> </ol> <p><b>地域・在宅看護論実習Ⅱ - 2</b></p> <p>【デイサービスセンターまたはデイケアセンター】</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. デイサービスセンター・デイケアセンターを利用している人々を理解する。</li> <li>2. 利用者の自立と生活習慣に応じた援助の実際を理解する。</li> <li>3. 地域で暮らす人々と家族を支援する施設の役割と看護の役割について考える。</li> </ol> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

## 成人看護学

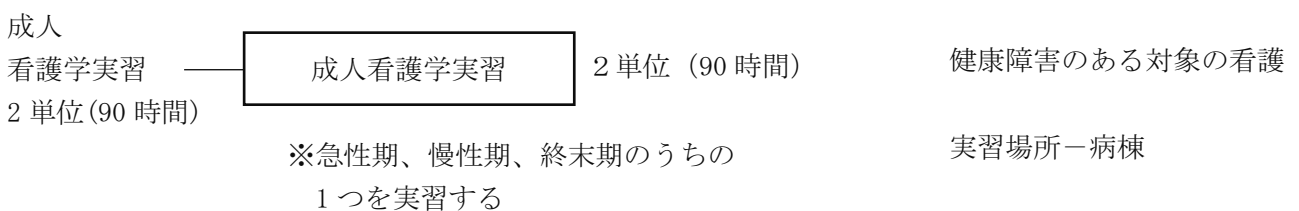
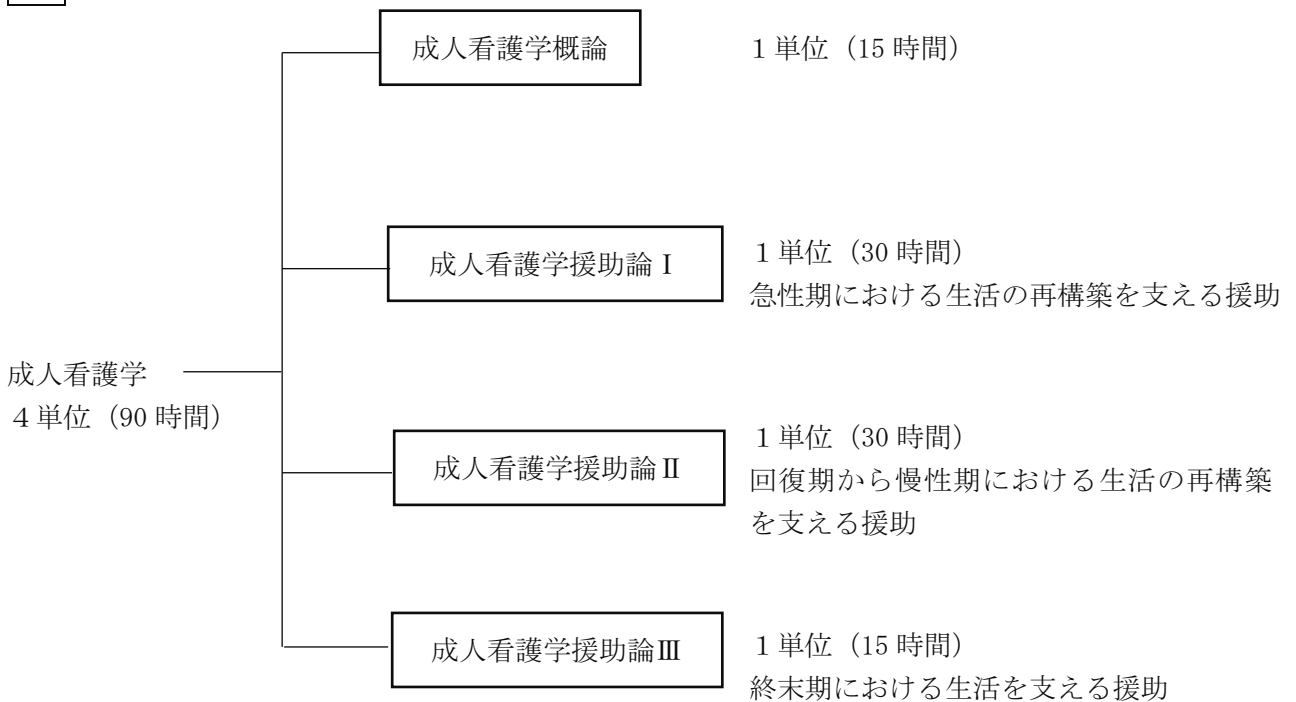
### 目的

成人期にある対象を理解し、発達段階に応じた健康の保持・増進と健康上の諸問題をもつ成人及びその家族に対する看護の実践に必要な基礎的能力を養う。

### 目標

1. 地域で生活する成人期にある対象の各発達段階の特徴を知り、身体的・心理的・社会的側面から対象を理解する。
2. 成人保健の動向を知り、成人期にある対象の最適な健康の重要性とその状況に応じた看護を理解する。
3. 地域で生活する成人期の対象および家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。
4. 成人期にある対象の健康上の問題を理解し、看護を実践できる知識・技術・態度を習得する。
5. 対象の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践できる。

### 構成



科目名  成人看護学概論	時間数 1 単位 15 時間  時期 1 年次前期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・成人の各発達段階の特徴および、成人を取り巻く環境と生活からみた健康を理解する。 ・大人の学習理論に基づいた行動変容の促進を促す看護アプローチの基本を理解する。 ・健康に影響を与える顕在的・潜在的要因を理解し、予防のため日常生活行動の修正を支援する看護の重要性を理解する。 ・健康障害を持ちながら生活する対象に必要な支援と他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1～3. 成人の各発達段階の特徴と健康の理解 1) 成人期における発達段階と3側面の理解 2) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 4～5. 成人への看護アプローチの基本 1) 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 (1) 生活行動がもたらす健康問題 (2) 大人の健康行動と健康観 (3) 行動変容を促す看護 2) チームアプローチ 3) 意思決定支援 4) 家族支援 6～7. 成人の健康レベルや状態に対応した看護 1) 地域と職場におけるヘルスプロモーションと看護 2) 健康をおびやかす要因と看護 (1) ストレスに関連する健康問題 (2) 職業に関連する健康問題 3) 健康障害を持ちながら生活する対象に必要な支援	講義・演習	事例検討 成人期の発達段階における対象理解と健康を促進する支援について考える  レポート課題 成人期における健康障害とその予防について
8. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院	評価方法 筆記試験 80% 課題 20%	
参考図書 国民衛生の動向 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版		
受講上の注意 本科目の授業内容に関連する既習知識を復習したうえで出席すること		



資源		
12～14. 救急看護を必要とする対象への看護 1) 健康危機状況としての特徴 2) 救命救急対応による生命の危機回避 3) 救急看護の場と多職種連携 4) 救急看護を必要とする対象の看護 (1) 救急看護を必要とする対象と家族の理解 (2) 救急看護における観察・アセスメントの特徴 (3) 救急時における基本的処置	講義 事例検討	臨床看護師 ※時間外テスト
15. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 成人看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版 系統看護学講座 別巻 救急看護学 医学書院		評価方法 ※専任教員 筆記試験 80% 課題 20%
参考図書 疾患別看護過程＋病態関連図 医学書院		※臨床看護師 筆記試験
受講上の注意 <b>【事前学習】</b> ・全身麻酔の身体への影響 ・ムーアの回復過程 ・手術侵襲による生体の変化 ・大腸の解剖生理（構造と働き） ・直腸癌の病態生理、検査、治療、看護 ・人工肛門について		

科目名 成人看護学援助論Ⅱ 慢性疾患や障害を持つ対象の生活を支える看護	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前後期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・ 障害をもつ対象と家族の特徴を理解する。 ・ リハビリテーションを必要とする対象への看護を理解する。 ・ 障害のある対象の特徴と援助方法について理解できる。 ・ リハビリテーション関連職種によるチームアプローチと看護の役割を理解する。 ・ 障害をもちながらも地域で生活していくことを支える看護を理解する。 ・ 慢性期にある対象と家族の特徴を理解する。 ・ 慢性疾患をもちながら地域で生活している対象のセルフケアマネジメントを推進する援助方法を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 障害がある人の生活 1) 障害がある人とリハビリテーション (1) 健康危機状況としての特徴 2) 障害がある人と家族の生活を支援する看護 (1) 時期および目的から見たリハビリテーション看護 2. リハビリテーションを支援する看護援助 1) リハビリテーション看護の目標 2) リハビリテーションチーム(多職種連携)の中での看護の役割 3) 生活再構築へのアセスメントと援助 3. リハビリテーションを必要とする対象と家族の実際 1) 運動機能障害のある対象の看護 2) 地域でその人らしく生活するための支援	講義・演習	臨床看護師 事例検討 *時間外テスト



科目名  <b>成人看護学援助論Ⅲ</b>  全人的苦痛を緩和しその人らしい生を支える看護	時間数 1 単位 15 時間  時期 2 年次前期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・終末期に関する概念を理解し、倫理的課題・死について自分の考えを述べることができる。 ・終末期にある対象と家族の特徴を理解する。 ・終末期にある対象と家族に必要な援助を理解する。 ・終末期にある対象に対する看護の実際と多職種連携を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 終末期にある対象の理解 1) 終末期医療における概念 ①緩和ケア ②エンド・オブ・ライフケア ③ホスピスケア ④ターミナルケア 2) 終末期にある対象の理解 (1) 健康障害の進行と全人的苦痛（トータルペイン） (2) 死の受容過程 2. 終末期における倫理的な課題 3～4. 全人的ケアと意思決定支援 1) 終末期にある対象の看護 (1) 身体的ケア、精神的ケア、社会的ケア、スピリチュアルケア (2) 症状アセスメントとマネジメント (3) 健康障害の進行と意思決定支援（ACP） (4) 対象及び家族を支える多職種連携 2) 家族のケア (1) 家族のケアのあり方、方法 (2) グリーフと遺族ケア	講義・演習	専任教員  事例検討 緩和治療を受けながら生活する対象の看護 ・全体関連図 ・全人的苦痛の緩和  DVD 視聴  レポート課題 自己の死生観と終末期にある対象の看護

<p>5～7. 終末期の生活を支える看護の実際</p> <p>1) 治療と苦痛の緩和に向けての支援</p> <p>2) 対象者の意思を尊重し、その人らしく過ごすための支援</p> <p>3) 対象者及び家族を支える多職種連携</p>	<p>講義・演習</p>	<p>臨床看護師 事例検討</p>
<p>8. 試験</p>		
<p>使用する図書</p> <p>系統看護学講座 緩和ケア 医学書院</p> <p>系統看護学講座 がん看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器 医学書院</p>	<p>評価方法 筆記試験 80%</p>	
<p>参考図書</p> <p>成人看護学⑥緩和ケア メディカ出版</p> <p>疾患別看護過程+病態関連図 医学書院</p>	<p>課題 20%</p>	
<p>受講上の注意</p> <p><b>【事前学習】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トータルペインについて</li> <li>・ 疼痛コントロールについて</li> <li>・ アドバンス・ケア・プランニング (ACP) について</li> <li>・ 死の受容過程</li> <li>・ 血液の解剖生理 (構造と働き)</li> <li>・ 白血病の病態生理、検査、治療、看護</li> </ul>		

科目名 成人看護学実習	単位数 2 単位	時間数 90 時間
第三看護学科：3 年次 5 月～9 月		
<p>目的</p> <p>成人期にある対象を理解し、健康の保持・増進、社会復帰に向けて対象及びその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の身体的・心理的・社会的側面を知り、対象の特徴を総合的に理解する。</li> <li>2. 成人期にある対象の最適な健康の重要性を理解し、その状況に応じた看護を理解する。</li> <li>3. 成人期にある対象の意思決定を支え、健康状態に合わせた看護が実践できる。</li> <li>4. 生活する成人期の対象及び家族を支える医療、継続看護の重要性を理解する。</li> </ol> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

## 老年看護学

### 目的

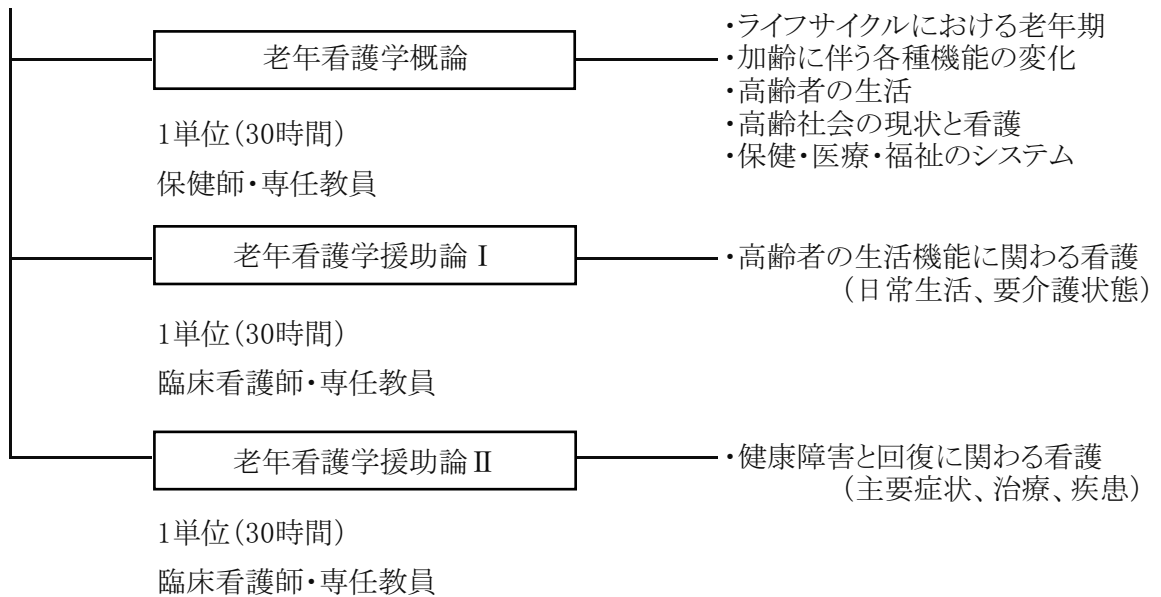
老年期にある対象の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや環境下にある高齢者に対して、その人が望む人生の統合に向けて支援するために必要な基礎的能力を養う。

### 目標

1. ライフステージのなかの老年期の身体的・心理的・社会的変化を理解し、老年看護の対象を理解できる。
2. 高齢者の健康課題を理解し、継続的・予防的な看護活動の必要性和看護の方法を理解できる。
3. 老年期の健康とQOLについて理解を深め、高齢社会における老年看護の役割について理解できる。
4. 生活する高齢者を支える医療、社会保障と福祉制度を理解し、その他の専門職との連携について知る。
5. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメント能力を養い、自立の段階に応じた援助が出来る。
6. 生活機能の障害が家族の機能にどのような影響を及ぼしているのかを理解できる。
7. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。
8. 高齢者の生活史について理解を深め、自己の高齢者観を養う。

### 構成

老年看護学 3単位(90時間)



老年看護学実習 2単位(90時間)

入院治療をうける対象の看護

実習場所 一般病棟

科目名  <b>老年看護学概論</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 1 年次前後期	講義担当者 保健師 専任教員	
科目のねらい・授業目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者を理解する視点を広げ、高齢者観を養う基礎とすることができる。</li> <li>・ 加齢に伴う身体的・心理的变化について理解し、支援のあり方を考えることができる。</li> <li>・ 社会構造の変化・高齢化に伴う高齢者の保健・医療における現状を理解する。</li> <li>・ 高齢社会での保健・医療・福祉制度の動向やその特徴、多様化する職種とその役割を理解する。</li> <li>・ 制度に基づいた各種サービスの内容と取り組みについて理解しその活用を考える。</li> </ul>			
DP との関連 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。</li> <li>2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。</li> <li>3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。</li> </ol>			
授業内容		方法	備考
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者を理解する視点</li> <li>2. 3. 高齢者を理解する視点（地域で生活する高齢者）</li> <li>4. 5. 加齢に伴う各種機能の変化と健康上の問題：加齢に伴う生理機能変化、感覚・知覚の変化、臓器の変化、体力・運動機能の変化、精神的变化と暮らし</li> <li>6. 7. 高齢者の生活と権利擁護</li> <li>8. 老年看護の目指すものと私の高齢者観</li> <li>9. 高齢社会における保健医療福祉制度：老年保健・医療の動向・暮らしの変化</li> <li>10. 11. 高齢社会における保健医療福祉制度：自立支援システム</li> <li>12. 高齢社会における保健医療福祉制度に関わる職種</li> <li>13. 在宅・施設サービスの構成と取り組み</li> <li>14. 治療・介護を必要とする高齢者の家族への支援 高齢者の人権に関する制度（成年後見制度と日常生活自立支援事業）</li> </ol>		講義・ 演習 GW・発表 事前学習：加齢に伴う各種機能の変化について →GW・発表 GW・発表 1～8. 専任教員 9～14. 保健師	
<ol style="list-style-type: none"> <li>15. 試験</li> </ol>			
使用する図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院			

<p>参考図書</p> <p>国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p> <p>高齢社会白書 内閣府</p>	<p>評価方法</p> <p>専任教員</p> <p>筆記試験</p>
<p>受講上の注意</p>	<p>70%、</p> <p>課題 30%</p> <p>保健師</p> <p>筆記試験</p> <p>100%</p>

科目名  <b>老年看護学援助論 I</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員 臨床看護師
科目のねらい・授業目標 ・生活機能の視点から、日常生活動作や転倒転落リスクについてのアセスメントと看護を理解する。 ・高齢者の健康上の問題や疾病をめぐる特徴をふまえ、生活に視点をあてたアセスメントと看護について理解する。 ・日常生活に介護の必要な認知症高齢者への援助の視点と方法を理解し、長年生きてきた生活過程を尊重した関わりを考えることができる。 ・生活の不活発がみられる高齢者への援助の視点と方法を理解し、要介護状態の重度化を予防する看護について考えることができる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 日常生活動作能力のアセスメントと援助の方法 2. 3. 生活機能維持のための転倒・骨折予防 4～7. 高齢者の日常生活のアセスメントと看護：食生活、排泄、清潔、運動・休息・睡眠 8. 高齢者の日常生活のアセスメントと看護 9～12. 認知症高齢者の看護 13. 生活が不活発な状態にある高齢者の看護：生活の不活発と廃用症候群 14. 生活が不活発な状態にある高齢者の看護：介護が必要な高齢者の看護の実際、介護予防	講義・演習	事例紹介 事例を使用し数名を対象にした転倒予防教室 GW/発表 骨盤底筋訓練、嚥下体操など 1～8. 専任教員 9～14. 臨床看護師
15. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院	評価方法	
参考図書 国民衛生の動向 厚生労働統計協会、高齢社会白書 内閣府	専任教員	
受講上の注意	筆記試験 90% 課題 10% 臨床看護師 筆記試験 100%	

科目名  <b>老年看護学援助論Ⅱ</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員 臨床看護師
科目のねらい・授業目標 ・高齢者の疾患の現れ方と特徴、徴候のアセスメントについて学ぶ。また主要症状や経過に応じた看護の方法について理解する。 ・薬物療法・外科的治療における患者の身体的課題を心理的側面との関連を考えながら理解する。また看護に必要なアセスメントと援助の方法を理解する。 ・老年期の主な疾患とその治療に伴う看護の方法を理解する。 ・高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメントの視点や健康レベルに応じた援助の方法を理解する。 ・高齢者の特徴や家族への影響を踏まえ、残存機能を活かしながらその人なりの自立した生活に向け、QOL を高める援助を考える。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1. 2. 主要徴候に焦点をあてたアセスメントと援助：精神活動に関する徴候 3. 主要徴候に焦点をあてたアセスメントと援助：感覚機能とコミュニケーション障害 4. 主要徴候に焦点をあてたアセスメントと援助：循環に関連する徴候 5. 薬物療法を受ける高齢者の看護 6. 7. 外科的治療を受ける高齢者の看護 8. 9. 主な疾患の看護：白内障、前立腺肥大、骨・関節疾患 10～14. 老年看護の展開	講義・演習	事例紹介      1～7. 10～14. 専任教員 8～9. 臨床看護師
15. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護学 病態・疾患論 医学書院		評価方法 専任教員 筆記試験 70%
受講上の注意		課題 30% 臨床看護師 筆記試験 100%

科目名 老年看護学実習	単位数 2 単位	時間 90 時間
第三看護学科：3 年次 9 月～12 月		
<p>目的</p> <p>高齢者の特徴を理解し、健康上の諸問題をもつ高齢者及びその家族に対して、健康の保持とQOLを向上させるための看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について理解する。</li> <li>2. 生活する高齢者を支える医療、社会保障と福祉制度を理解し、多職種連携、継続看護について知る。</li> <li>3. 高齢者のセルフケア能力を高めるためのアセスメント能力を養い、自立の段階に応じた援助ができる。</li> <li>4. 健康や生活の支えとなっているもてる力や潜在している力を最大限に引き出す援助ができる。</li> <li>5. 高齢者のその人らしさ、価値観を尊重した行動がとれる。</li> </ol> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象理解</li> <li>2. 対象のアセスメントと看護の方向性</li> <li>3. もてる力や潜在している力を活かした援助の実施</li> <li>4. 対象者の退院後の生活を見据えた援助の実施</li> <li>5. 対象者に応じた社会資源の活用や多職種連携の必要性和継続看護</li> </ol> <p>【臨床講義】 県立中央病院 患者総合支援センター</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者総合支援センターの概要と主な業務</li> </ol> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
受講上の注意		

## 小児看護学

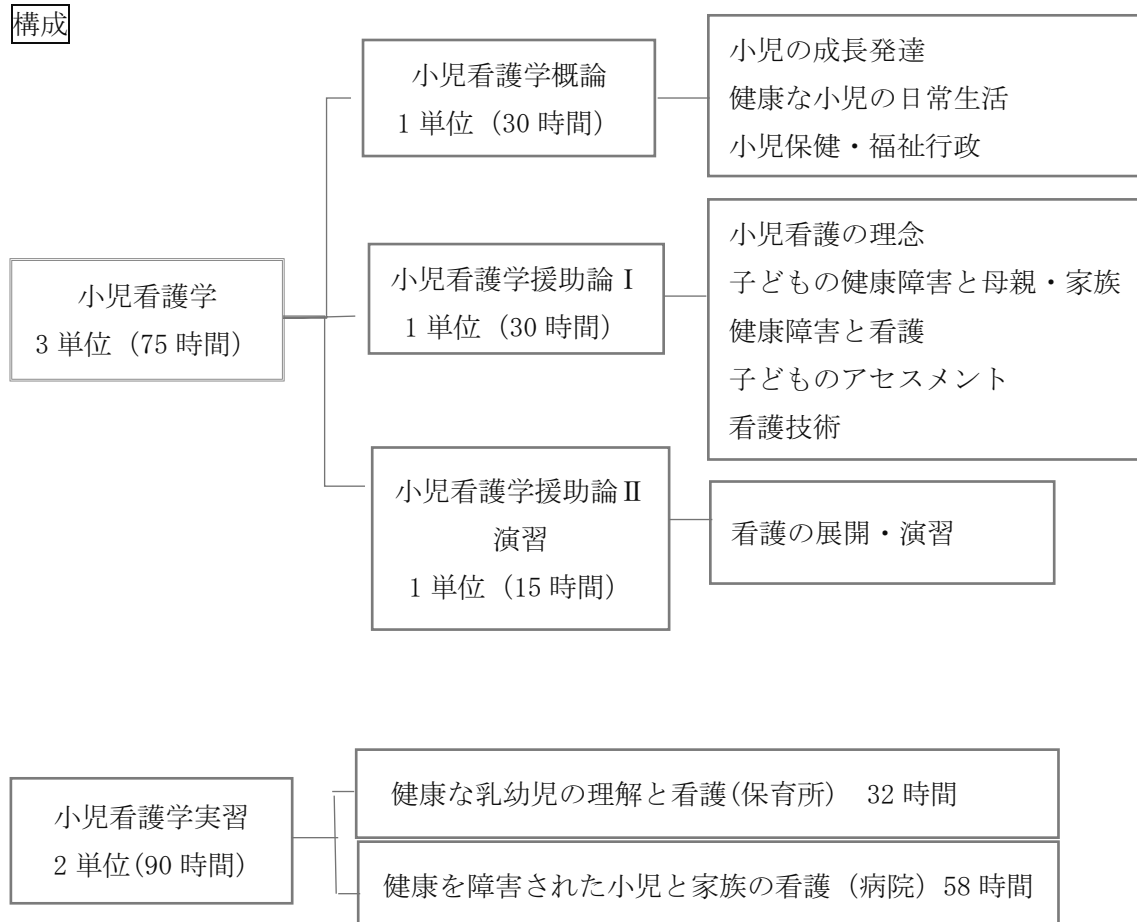
### 目的

あらゆる健康レベルにある子どもとその家族を対象にし、子どもの権利を尊重し、健やかな成長・発達を支え、地域でその子らしく生活できるように支援する看護の基礎的能力を養う。

### 目標

1. 小児各期の成長・発達を理解し、小児看護の対象である地域で生活する子どもとその家族を理解する。
2. 子どもの権利を尊重し、子どもにとっての最善の利益を目指した看護を理解する。
3. 地域で暮らす子どもの日常生活を知り、健やかな成長・発達を支援するための看護を理解する。
4. 健康問題をもつ子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、健康段階に応じた看護を理解する。
5. 子どものアセスメントに必要な看護技術を理解する。
6. 地域で生活する子どもとその家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。

### 構成



科目名  小児看護学概論	時間数 1 単位 30 時間  時期 1 年次後期	講義担当者 専任教員＊
科目のねらい・授業目標 ・子どもへの関心をもち、小児観を養う。 ・小児各期に応じて健やかな成長・発達を支援する看護を理解できる。 ・子どもの倫理と権利について考え、子どもにとっての最善の利益を目指した看護を理解する。 ・子どもと家族を取り巻く社会の変化を知り、子どもとその家族に及ぼす健康問題について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1. 小児看護とは 小児観、小児看護・医療の変遷、対象・場・役割 2. 小児看護における権利・倫理 3. 子どもの成長・発達の原則とアセスメント	講義	事前学習課題 子どもの成長発達  レポート課題①
4～9. 小児各期の成長・発達に応じた生活への支援 機能的発達、精神・運動の発達、発達理論 小児各期の形態的・身体生理の特徴、日常生活、 心理・社会的特徴 子どもの成長・発達に応じた遊びの援助	講義・演習①        演習②	児童憲章、子どもの権利 条約について 演習① 小児各期の成長・発達に 応じた生活への支援(GW) 演習②
10. 子どもにとっての家族	講義	遊びの企画書作成・実施
11～14. 子どもと家族を取り巻く社会環境の変化と課題 法律・施策・社会資源・予防接種 地域の子どもの生活と健康問題	講義・演習③	(GW) 演習③ 子どもと家族を取り巻く 社会環境の変化と課題
15. 試験	(GW)	
使用する図書 系統看護学講座 専門Ⅱ小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児看護①小児の発達と看護 メディカ出版	評価方法 筆記試験 70% 課題 30%	
参考図書 国民衛生の動向 厚生統計協会編集、 筒井真優美他 小児看護学 日総研		
受講上の注意 関連科目：家族看護論		



<p>9. 4) 周手術期にある子どもと家族の看護  10. 5) 終末期にある子どもと家族の看護  11. 6) 出生直後から集中治療が必要な子どもと家族の看護</p>	講義	専任教員
<p>12. 重症心身障害のある子どもと家族の看護  13. 外来における子どもと家族の看護  救命救急処置が必要な子どもと家族の看護  14. 医療的ケアを必要として退院する子どもと家族の看護</p>	講義	臨床看護師
15. 試験		
<p>使用する図書  系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院  系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院  ナーシンググラフィカ 小児①小児の発達と看護 メディカ出版  写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ</p>	<p>評価方法  筆記試験 70%  課題 30%</p>	
<p>参考図書  系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院</p>		
<p>受講上の注意  関連科目：フィジカルアセスメント  疾病論Ⅲ（小児疾患）：小児疾患の病態・症状・検査・診断・治療</p>		

科目名  小児看護学援助論Ⅱ	時間数 1 単位 15 時間  時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員＊	
科目のねらい・授業目標 ・事例を通して、小児の発達段階・健康状態に応じた看護を展開できる。 ・子どもの最善の利益を考慮し、子どもの力を引き出す援助を考えることができる。 ・小児各期に応じて健やかな成長・発達を支援する看護を考えることができる。 ・子どもとその家族が安心して地域で暮らし続けられるように、継続看護の必要性を理解し、社会資源の活用について理解できる。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。			
	授業内容	方法	備考
1～5. 健康を障害された子どもの看護の展開（紙上事例） ①患児の成長・発達状況 ②病理的状态による基本的欲求への影響 ③基本的欲求に関する情報の整理 ④分析・解釈 ⑤全体関連図 ⑥目標設定・計画立案 6. 子どもと家族が地域で暮らすための継続看護 7. 子どもの力を引き出す援助の実施 8. 振り返り・まとめ	演習①           演習②	事前学習 （疾患・検査・治療・看護）          演習② バイタルサイン測定・プレパレーション（GW）	
使用する図書 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児看護学概論・小児臨床看護総論 医学書院 ナーシンググラフィカ 小児看護①小児の発達と看護 メディカ出版 写真でわかる小児看護技術アドバンス インターメディカ			評価方法 課題
参考図書 発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図 医学書院			
受講上の注意 関連科目：看護過程			

科目名 小児看護学実習	単位数 2 単位	時間 90 時間
第三看護学科：3 年次 5 月～7 月		
<p>目的 子どもの理解を深め、健康上の問題をもつ子どもとその家族に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもとの関わりを通して、子どもの成長・発達の特徴を理解し、対象に適した成長・発達を支援する援助ができる。</li> <li>2. 子どもとその家族と円滑な人間関係を築く関わりができる。</li> <li>3. 健康障害や入院、治療が子どもやその家族に及ぼす影響を理解する。</li> <li>4. 健康段階に応じた子どもとその家族への看護の方向性を理解し、意思決定支援や最善の利益を目指した看護を実践できる。</li> <li>5. 対象に適した方法で小児看護技術を実践することができる。</li> <li>6. 地域で生活する子どもとその家族を支えるための継続看護と多職種連携における看護の役割を理解する。</li> <li>7. 自己の小児観を養う。</li> </ol> <p>【保育所実習】</p> <p>目的 健康な乳幼児の理解を深め、その発達段階に応じた働きかけを学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもに親しみをもって関わるができる。</li> <li>2. 子どもの成長発達を理解する。</li> <li>3. 基本的な生活習慣を理解する。</li> <li>4. 子どもにとっての遊びの重要性を理解する。</li> <li>5. 健全な成長発達を促進するための働きかけを理解する。</li> <li>6. 実習施設と家庭及び地域との連携のあり方を理解できる。</li> </ol> <p>【小児病棟実習】</p> <p>目的 健康問題をもつ子どもとその家族を理解し、成長発達段階、健康段階に応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもとその家族と円滑な関係を築く関わりができる。</li> <li>2. 健康問題、入院、治療が子どもや家族に及ぼす影響をアセスメントし、看護の方向性を考えることができる。</li> <li>3. 子どもの成長・発達に応じた安全・安楽な援助ができる。</li> <li>4. 子どもの最善の利益を目指して、子どもの力を引き出す援助ができる。</li> <li>5. 対象に合わせて実践した援助に対して省察し、次の援助に活かすことができる。</li> </ol>		

6. 多職種との連携・協働や継続看護を理解し、小児看護の役割を考える。

7. 小児看護に関する関心を深め、小児観を養う。

●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照

学習上の注意

# 母性看護学

## 目的

女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と次世代の健全育成を目指し、産み育てるための母性への支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

## 目標

- 目標： 1. リプロダクティブヘルスにかかわる概念を理解する。  
2. 親になることの意味を考え、母性のとらえかたについて理解する  
3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する。  
4. リプロダクティブヘルスに関する主要な健康問題と看護を理解する。  
5. 女性のライフステージ各期の健康にかかわる諸問題をとらえ、看護や保健指導について理解する。  
6. 性と生殖に関する倫理観を養う  
7. 妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象とその家族を理解する。  
8. 周産期にある対象に次世代の健全な育成にむけてのセルフケアを高める援助を理解する。

## 構成

### 母性看護学

3単位 (90時間)

母性看護学概論	1単位 (30時間)	親になること、母性看護のあり方 対象を取り巻く社会の変遷と現状 リプロダクティブヘルスケア ライフステージ各期の特徴と看護	専任教員 開業助産師
母性看護学援助論Ⅰ	1単位 (30時間)	正常な妊娠・分娩・産褥・新生児の経過とその看護	専任教員 開業助産師
母性看護学援助論Ⅱ	1単位 (30時間)	妊娠・分娩・産褥・新生児の異常とその看護 母性看護の看護展開 母性看護技術	医師・臨床助産師 専任教員

### 母性看護学実習

2単位 (64時間)

周産期にある対象の看護

実習場所一産科病棟・産科外来



科目名 母性看護学援助論 I	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 専任教員* 開業助産師*
科目のねらい・授業目標 ・妊娠、分娩、産褥、新生児期にある対象とその家族が理解できる。 ・周産期にある対象に次世代の健全な育成に向けてセルフケアを高める援助が理解できる。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1～4. 妊娠の経過とその看護 1) 妊娠の経過 2) 妊婦と胎児のアセスメント 3) 妊婦と家族の看護 セルフケア、親になるための準備教育	講義 演習	専任教員 演習 GW/発表
5～7. 分娩の経過とその看護 1) 分娩の生理、分娩経過 2) 産婦・胎児、家族のアセスメント 3) 産婦と家族の看護	講義	
8～10. 新生児の生理とその看護 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護	講義	
11～13. 産褥の経過とその看護 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護 復古を促進させる援助、母乳栄養確立のための援助、母子関係確立への援助、家族再構築への看護	講義	
14. 施設退院後の看護 子育て支援	講義	開業助産師
15. 試験		
使用する図書 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ		評価方法 専任教員 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院		
受講上の注意		

科目名  母性看護学援助論Ⅱ	時間数 1 単位 30 時間  時期 2 年次後期	講義担当者 医師* 臨床助産師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 1. 周産期特有の疾患の病態、症状、診断、治療を理解する。 2. 異常時の妊産褥婦・新生児とその看護を理解する。 3. 紙上事例を通して、母性看護の看護展開が実践する。 4. 基本的な母性看護技術を実践し、その方法について理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1－3. 妊娠、分娩、産褥の異常 1) 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・流産・早産・多胎妊娠 2) 前置胎盤・常位胎盤早期剥離・胎児機能不全・分娩時の異常出血・帝王切開 3) 子宮復古不全・産褥期精神障害	講義	医師
4－7. 異常妊娠、分娩、産褥、新生児の看護 1) 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・多胎妊娠・流産・早産 2) 分娩遷延・破水・胎児機能不全・帝王切開 3) 母子分離・産褥期精神障害・死産・乳房トラブル 4) 低出生体重児・高ビリルビン血症・先天異常をもつ新生児	講義	臨床助産師
8－10. 母性看護における看護展開の特殊性 母性看護の特徴 (母子1組・ウェルネスの考え方) 妊娠期の看護 妊娠初期・妊娠中期・妊娠後期 関連図の作成 褥婦と新生児の看護 産褥1日目～3日目	演習	専任教員 演習：事例検討 <学内演習①> ・産褥3日目の母子の看護 <学内演習②>
11. 褥婦と新生児の看護 産褥3日目	学内演習①	・胎児心音の聴取
12. 褥婦と新生児の看護 産褥3日目・退院に向けて	演習	・新生児の観察・身体計測
13－14. 母性の看護技術	学内演習②	・沐浴
15. 褥婦と新生児の看護 退院時の看護	演習	
使用する図書 系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 写真でわかる母性看護技術アドバンス インターメディカ		評価方法 医師 筆記試験
参考図書 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院		臨床助産師 筆記試験
受講上の注意 看護技術は事前の練習をして臨むこと		専任教員 課題

科目名 母性看護学実習	単位数 2単位	時間 64時間
第三看護学科：3年次 5月～12月		
<p>目的</p> <p>妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、女性のライフサイクルに応じた看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>【産科病棟・外来】</p> <p>目標 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生理的経過を理解する。  2. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族に対する保健指導を理解する。  3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児とその家族を含めたアセスメントを行い、必要な看護援助を実践し評価する。  4. 母性看護における継続看護の必要性を理解する。  5. 妊娠・分娩・産褥期における親子関係について理解する。  6. 生命の誕生に関わることを大切にし、対象を尊重した態度をとる。  7. 看護の体験と学習を結びつけ、母性観・父性観を育む。</p> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

## 精神看護学

### 目 的

精神の健康を保持増進するための支援や、精神に何らかの健康問題を抱えている人々がその人らしく生きるための支援に必要な看護の基礎的能力を養う。

### 目 標

科目のねらい・授業目標

1. 発達理論、精神力動論、医学モデルなどの視点から、精神の健康から不健康を多角的に理解する。
2. 精神の健康から不健康と生活行動との関連、さらに環境と生活行動との関連を理解し、その援助を考える。
3. 精神障がいをもつ対象とその家族の特徴を理解し、生活の質を高める看護について理解する。
4. 地域精神保健活動のシステムと活動の実際を理解する。
5. 精神保健福祉活動における看護の責任と役割を理解する。
6. 災害における精神保健福祉活動を理解する。
7. 精神の健康回復への援助を行うための基礎的知識・技術を習得する。
8. 精神障がいのある対象者に応じた看護を理解する。
9. 精神の健康回復への援助及びその過程を通して自己洞察をおこない、対象との関係性の構築を考えることができる。
10. 精神障がいのある対象の地域生活への支援を理解する。

精神看護学 3単位75時間	精神看護学概論 1単位15時間	発達理論、精神力動論、医学モデルなどからの精神障がいをもつ対象の理解 精神保健福祉活動や地域精神保健福祉活動における看護の役割の理解 災害における精神保健福祉活動
	精神看護学援助論Ⅰ 1単位30時間	精神障がいをもつ対象とその家族の理解 精神の健康回復への基礎的な看護援助技術の習得
	精神看護学援助論Ⅱ 1単位30時間	精神障がいをもつ対象のそのひとらしさを考えた看護の理解 看護師としての自己洞察の重要性の理解
精神看護学実習 2単位90時間	病棟実習	対象との関係構築場面における関係性の発展過程と精神の健康回復への援助の実践
	社会復帰施設実習	精神障がいをもつ対象の地域支援について理解する

科目名  <b>精神看護学概論</b>	時間数 1 単位 1 5 時間 時期 1 年次全期	講義担当者 臨床心理士* 精神保健福祉士*	
科目のねらい・授業目標 ・発達理論、精神力動論、医学モデルなどの視点から、精神の健康と精神障害をもつ対象を多角的に理解する。 ・精神の健康から不健康と生活行動との関連、さらに環境と生活行動との関連を理解し、その援助を考える。 ・精神機能の障害をもつ人とその家族の特徴を理解し、生活の質を高める看護について理解する。 ・精神保健の歴史と精神福祉をめぐる福祉制度について理解する。 ・災害における精神保健福祉活動を理解できる。			
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。			
	<b>授業内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1. パーソナリティの成長発達 2. 3. ストレスと対処行動・適応と心身の健康 4. ライフステージにおける発達課題 5. 生活の場と精神健康問題	講義・演習	1～5.; 臨床心理士 (9 時間)	
6～8. 社会の中の精神障がい 1) 精神保健福祉の歴史・精神保健福祉法の現状 2) 精神保健医療福祉をめぐる法制度 3) 災害における精神保健福祉援助	講義・演習	6～8.; 精神保健福祉士 (6 時間)	
使用する図書 1. 精神看護学①精神看護の基礎, 医学書院 2. 精神看護学②精神看護の展開, 医学書院		評価方法 筆記試験 100% *テストは時間外	
参考図書 1. 精神保健福祉, 医学書院 2. 災害看護・国際看護, 医学書院			
受講上の注意			

科目名  <b>精神看護学援助論 I</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次前期	講義担当者 臨床看護師* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・精神の健康回復への援助を行うための基礎的知識・技術を習得する。 ・急性期における精神障がいをもつ対象に応じた看護を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる。		
授業内容	方法	備考
1～4. 精神疾患をもつ対象の看護① 1) 気分障害 2) 発達障害	講義	臨床看護師 (8 時間)
5～7. 精神疾患をもつ対象の看護② 1) アルコール使用障害 2) パーソナリティ障害 3) 摂食障害	講義	臨床看護師 (6 時間)
8～11. 精神障がいをもつ対象とその家族の看護 1) 地域で暮らす精神疾患をもつ対象とは 2) 精神看護に必要な基本的看護技術 ・患者-看護師関係成立の技術 ・精神状態をアセスメントする技術 ・不安の援助と防衛機制 3) 精神科の入院 ・行動制限と治療 ・急性期の看護 4) 精神科治療と看護 ・対象の回復過程を考えた治療の進展と看護 5) セルフケアモデルから患者の状態をアセスメントする 6) 社会復帰に向けた看護 ・入院患者の退院支援 ・地域で暮らす精神障がいのある対象者への支援 12. リエゾン精神看護 13. 14. 精神疾患をもつ人の生きづらさ・生きにくさの理解	講義・演習 ・グループワーク ・コンセプト学習 ・事例を通しての演習  DVD 視聴・演習	* 1 事例を通して、対象の生活の中で、急性期における精神科病院の入院、行動制限、治療と看護、社会復帰に向けての看護を学ぶ。
15. 筆記試験		

<p>使用する図書・教材</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護学①精神看護の基礎, 医学書院, 武井麻子他</li> <li>2. 精神看護学②精神看護の展開, 医学書院, 武井麻子他</li> <li>3. 精神看護学学生－患者のストーリーで綴る実習展開, 医歯薬出版, 田中美恵子</li> <li>4. DVD「ビューティフルマインド」</li> </ol>	<p>評価方法</p> <p>筆記試験 60%</p> <p>課題 40%</p> <p>*外部講師は 筆記試験 授業時間外</p>
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ストレングスからみた精神看護過程 医学書院</li> </ol>	
<p>受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習；オレム・アンダーウッドのセルフケア理論を A4 レポート用紙 5 枚にまとめる。</li> </ul>	

科目名  <b>精神看護学援助論Ⅱ</b>	時間数 1 単位 30 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・慢性期における精神障がいをもつ対象に応じた看護を理解する。 ・精神の健康回復への援助及びその過程を通して自己洞察しうる能力を養う。 ・精神保健福祉の現状から、精神障がいをもつ人の地域生活への支援を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 2. 人々の健康上の課題に対応した看護を、科学的根拠に基づいて健康状態やその変化に応じ、実践することができる 3. 社会のニーズをとらえ多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容 1～3. 精神看護における看護場面の再構成 1) ロールプレイ 2) 感情活用の実際 4～10. 慢性期における精神障がいをもつ対象とその家族の看護 1) 長期療養患者・家族の背景 ・社会背景 ・患者・家族の背景 ・看護者の背景 2) 慢性期における主な疾患・治療・看護 3) 自立的生活への援助；ストレングスモデル 4) 長期療養患者の退院支援 5) 慢性期における精神障がいをもつ対象とその家族への看護の実際を考える 11～13. 精神保健福祉の現状を理解する 1) 長期入院患者の退院について 2) 地域に住む精神障害をもつ対象の社会資源 14. 演習の振り返り	方法 講義・演習	備考 *長期療養患者の看護を、事例を通しストレングスとセルフケアを視点に考える。 *実習記録用紙を使用 *演習はテーマに沿って効果的な方法をとる。 例) ロールプレイ、協働学習、ディベートなど。
15. 試験	筆記試験	
使用する図書 1. 精神看護学①精神看護の基礎, 医学書院, 武井麻子他 2. 精神看護学②精神看護の展開, 医学書院, 武井麻子他 3. 精神看護学学生－患者のストーリーで綴る実習展開, 医歯薬出版, 田中美恵子		評価方法 筆記試験 40% 課題 60%

参考図書 1. 看護場面の再構成 日本看護協会出版会, 宮本真弓 2. ストレングスからみた精神看護過程 医学書院	
受講上の注意	

科目名  <b>精神看護学実習</b>	単位数  2単位	時間  90時間
第三看護学科：3年次 7月～9月		
<p>目的  精神の障がいがある人及びその家族の理解を深め、精神の健康回復への看護ができる基礎的能力を養う。</p> <p>目標  1. 自分の感情や行動の傾向に気づき、自己洞察することができる。  2. 患者－看護師関係の発展過程を理解することができる。  3. その人らしさをふまえた看護の方向性を考えることができる。  4. 精神障がいのある対象が地域で生活していく上で求められる精神看護の役割を考えることができる。</p> <p><b>【病棟実習】</b></p> 1. 精神科病院の機能・構造 2. 精神科病棟に入院している患者の病態生理、必要な検査、治療、予後 3. 受け持ち患者との関係性の発展過程の実際 1) 再構成を記載し自己洞察をする 2) 患者の強みを見出す 3) 感情活用 4. 精神科病棟に入院している患者のアセスメントと看護の方向性 1) 全体像の関連図から、オレム・アンダーウッドのセルフケア理論を使用した患者の日常生活への影響を考える 2) ストレングスモデルから患者の目標を設定 3) 臨床判断モデルから考える看護の実践 5. 病棟における退院支援；看護師の役割 1) スタッフミーティングへの参加 2) 実際の退院支援の見学 <p><b>【社会復帰施設実習】</b></p> 1. デイケアの役割・機能 2. 継続医療の実際；外来の役割・機能 3. グループホームなど社会復帰施設の見学 <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意 事前学習		

## 看護の統合と実践

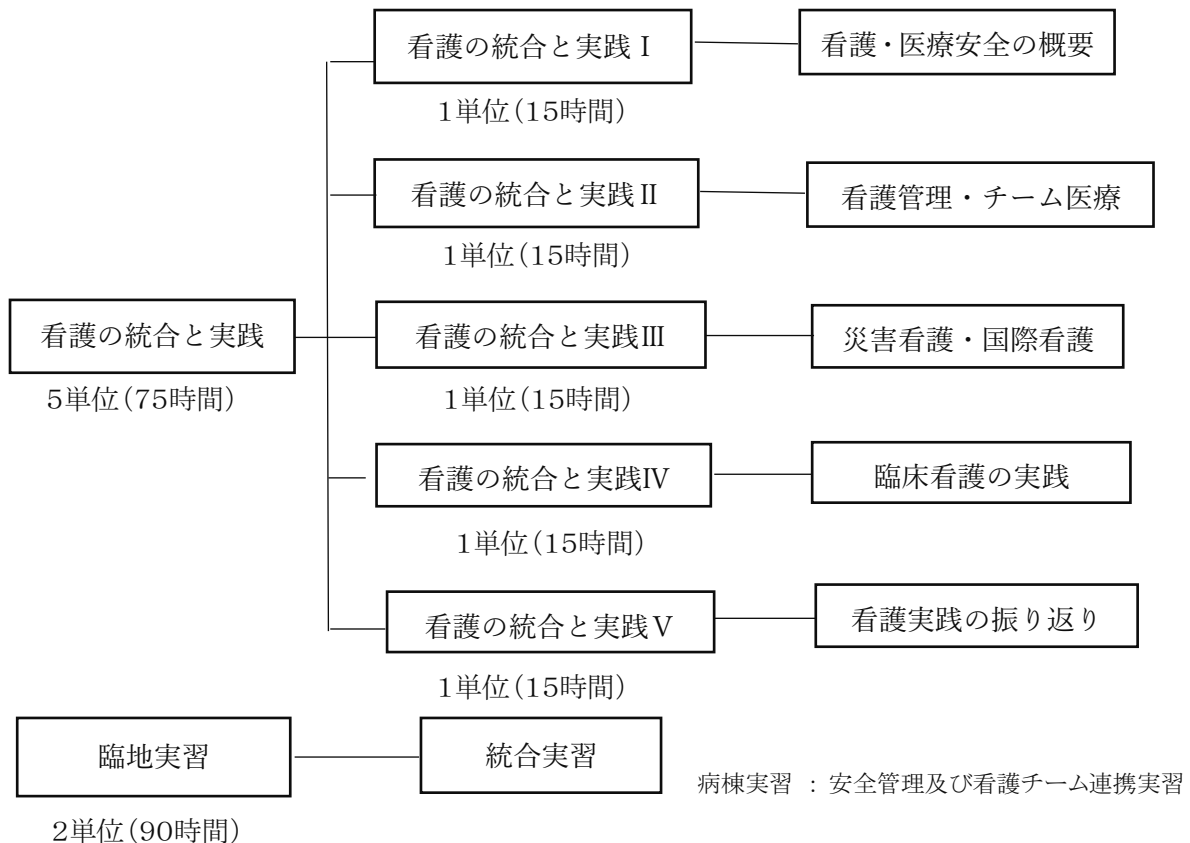
### 目的

看護の知識・技術を統合し、臨床に適応する基礎的能力を養う。

### 目標

1. 保健・医療・福祉チームの一員として協働するために、看護職としての役割とマネジメント能力の必要性を理解する。
2. 医療安全の基礎的知識を学び、看護・医療事故やその影響を最小限にすることのできる知識と技術を習得し、看護・医療安全を遵守する意思を高める。
3. 災害看護の役割・災害直後から支援できる基礎的知識について理解する。
4. 世界の健康問題と看護の現状や課題をふまえ、看護の国際協力の活動内容の実際を学ぶ。諸外国で展開される看護実践や国際的な支援活動について理解し、国際的視野を広げる。
5. 既習の知識・技術・態度を統合し、様々な場面においてその技術を活用できる能力を養う。
6. 自己の看護の修得状況を認識し、熟練・向上するために継続的に学習する能力を養う。
7. 看護職以外の専門職が担う役割や専門性を理解し、チーム医療を発揮するために看護職と多職種との連携・協働について考える。
8. 自己の看護観をまとめ、看護専門職としての目標を明確にする。

### 構成



科目名  <b>看護の統合と実践 I</b>	時間数 1 単位 15 時間 時期 2 年次後期	講義担当者 専任教員もしくは 臨床医療安全管理 者（経験者）＊
科目のねらい・授業目標 ・医療安全を学ぶことの意義や医療事故に関する基礎的知識が理解できる。 ・事例を通して看護業務を行う上での種々の危険因子を説明できる。 ・事故防止のための具体的な行動について理解し、判断力を高める。 ・安全管理に取り組む組織の一員として自覚を高める。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容 1. 2. 看護・医療事故予防 1) 医療安全を学ぶことの大切さ 2) 事故防止の考え方を学ぶ ・医療事故と看護業務・看護事故の構造・看護事故防止の考え方 3～5. 看護・医療事故予防の実践 1) 診療の補助の事故防止 2) 療養上の世話の事故防止 3) 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 4) 看護師の労働安全衛生上の事故防止 6. 7. 医療安全管理 1) 組織的な安全管理体制への取り組み 2) 医療安全対策の国内外の潮流 8. 試験	方法 講義  講義 演習  講義	備考 臨床医療安全管理者  ＊看護・医療事故予防の実践については、危険予知トレーニングを含むものとする ＊事例は医療安全ワークブックを参考とする
使用する図書 系統看護学講座 医療安全 医学書院 医療安全ワークブック	評価方法 筆記試験	
参考図書 系統看護学講座 看護学概論 医学書院		
受講上の注意		

科目名  看護の統合と実践Ⅱ	時間数 1 単位 15 時間 時期 3 年全期	講義担当者 病棟管理者* 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・病院において医療全体が効果的、経済的に機能するための管理方法の基本を理解する。 ・看護組織における看護サービスの管理方法を理解する。 ・組織の目的達成や協働のために必要な役割を理解する。 ・チーム医療における多職種連携・協働の意義と看護の役割を理解する。		
DP との関連 1. 生命を尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 3. 社会のニーズをとらえ、多様な場で生活する人々への看護を実践することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、看護及び他職種の役割や多職種と連携・協働する必要性を理解できる。		
授業内容	方法	備考
1～5. 看護とマネジメント 1) 看護管理とは 2) 看護サービスとマネジメント 3) 目標達成のためのマネジメント 組織の中の役割 1) 効果的なリーダーシップ、メンバーシップ マネジメントに必要な知識と技術 1) 効果的なコミュニケーション 2) 組織における意思決定	講義	病棟管理者          ※時間外試験
7～9. チーム医療とは 1) チーム医療に必要な機能 ・情報の共有化 ・他職種の理解 ・交渉能力の必要性 2) 多職種協働の意義、看護師の専門性・役割 3) 保健・医療・福祉チームの各職種と役割の理解 チーム医療を發揮するための看護師役割と多職種連携・協働 1) チーム医療で大切なこと 2) チーム医療の今後の方向性	講義         演習	専任教員         グループワーク
使用する図書	系統看護学講座 看護管理 医学書院	
参考図書 系統的看護学講座 看護学概論 医学書院	評価方法 筆記試験 (病棟管理者)	
受講上の注意	課題 (専任教員)	





科目名  看護の統合と実践V	時間数 1 単位 15 時間 時期 3 年次前後期	講義担当者 専任教員*
科目のねらい・授業目標 ・自己の看護を振り返り、対象の理解や看護の意味を考えることができる。		
DP との関連 1. 生命尊重し、看護の対象を人として尊重した看護が実践できる。 5. 専門職業人として向上し続けるために、最新の知識・技術を自ら学び続けることができる。		
授業内容	方法	備考
1. 自己の考える看護について 1) 実習の経験の振り返り 2) 大切にしたい看護の意味 3) 看護理論との関連 ・文献をもとに自己の体験の裏付け 4) 今後の目標・課題	講義	
2. リフレクション 1) 実習の経験の振り返り 2) 自己の大切にしたい看護の意味	演習	グループでの意見交換を基に看護観をまとめる
3～7. 自己の看護観 ・看護観を他者に伝え、自己の看護観を振り返る	発表会	
8. 看護観評価 1) 自己評価 2) 他者の看護観からの学び 3) 看護専門職としての目標	演習	看護観発表会後実施
使用する図書 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 系統看護学講座 情報科学 医学書院		評価方法 課題
参考図書 看護学生のためのケーススタディ メヂカルフレンド社		
受講上の注意 看護観のまとめは、授業時間外でも計画的にすすめる。 発表会で看護観を共有し学びを深める。		

科目名 統合実習	単位数 2単位	時間 90時間
第三看護学科：3年次 9月～12月		
<p>目的</p> <p>チーム医療の一員として協働できる基本的能力および複数の対象への看護実践能力を高める。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護チームの一員として、対象の健康状態やその変化に応じた看護実践ができる。</li> <li>2. 病院および病棟における看護管理と医療安全の実際を理解できる。</li> <li>3. 看護チームの一員としてメンバー及びリーダーの役割を理解できる。</li> <li>4. チーム医療における多職種連携・協働について理解できる。</li> </ol> <p>【病棟実習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護管理  臨床講義 病院組織における看護管理（看護部長）  病棟管理の実際</li> <li>2. チームリーダーの役割と多職種との協働の実際</li> <li>3. チームメンバーの役割と複数患者への看護実践</li> <li>4. 複数受け持ち患者に応じた援助</li> </ol> <p>●実習内容・実習方法・実習評価は実習要綱参照</p>		
学習上の注意		

## XI. 教育に関する事項

### 1 授業時間

- (1) 年間授業週数 44 週
- (2) 週当たりの授業時間数 24 時間
- (3) 講義は、45 分を 1 時間とし、2 時間 (90 分) を 1 時限とする。
- (4) 実習は、50 分を 1 時間とし、1 日 8 時間とする。

### 2 授業単位数 (時間数)

- (1) 教科授業総単位数 78 単位 (2232 時間)
  - 講義 60 単位 (1500 時間)
  - 実習 18 単位 ( 732 時間)

### 3 年間休業日

- 土・日曜日
- 国民の祝日に関する法律に定める日
- 春季休業日 2 週
- 夏季休業日 4 週
- 冬季休業日 2 週
- その他学校長が必要と認めた日

### 4. 日課表

講 義		
1 限目	9 : 00 ~ 10 : 30	月・火・木・金曜日 13 : 30 ~ 16 : 40 水曜日 9 : 00 ~ 16 : 40
2 限目	10 : 40 ~ 12 : 10	
(昼休み	12 : 10 ~ 13 : 30)	
3 限目	13 : 30 ~ 15 : 00	
4 限目	15 : 10 ~ 16 : 40	

実 習	
1 日実習	8 : 30 ~ 16 : 10

\* 実習によって時間帯の変更あり

## XII. 教科外教育活動

	項 目	ね ら い	備 考
学 校 行 事	入学式	入学許可及び看護志向の自覚啓発と学習意欲の動機づけ。	
	卒業式	教育課程修了の認定及び看護の専門職としての社会に貢献する自覚の動機づけ。	
	学校祭	学生の自主性、協調性、創造性を養う。	学校祭委員
	定期健康診断	学生の健康管理をおこなうとともに、健康・保健に対する意識を高める。	保健委員会
	防災訓練	医療職者としての防災に対する意識の普及と避難活動の体験	防災訓練
課 外 活 動	入学時 オリエンテーション	教育課程のガイダンス及び学校生活に係わる規律や施設利用のオリエンテーション。	
	特別講義	幅広いテーマの中で、物事の見方・考え方を広める。	
	ホームルーム	学校活動により、連携と親睦を深める。	

非 売 品

## シラバス

発 行 日 令和8年3月31日

編 集 石川県立総合看護専門学校  
専門課程・第三看護学科  
〒920-8201 金沢市鞍月東2丁目1番地  
TEL (076) 238-5877

印 刷 株式会社 谷 印 刷  
〒920-8022 金沢市中村町28番14号  
TEL (076) 242-7267